



永田行博 学長

鹿児島大学は創立以来すでに50余年の歴史を有しており、8学部から成り、約1万人の学部学生と約2千人の大学院学生を数える日本有数の総合大学であります。

鹿児島は日本列島の南の玄関に位置し、古くから海外の文化の移入や外交と関わり、海外との交流の盛んな地でありました。したがって、そこに位置する鹿児島大学は大学が持っている地域貢献という使命とともに、地理的にも、歴史的にも大きな使命を持っており、わが国の国立大学の中でも大きな責任の一端を担っている大学といえます。

鹿児島大学は昭和24年5月31日国立学校設置法により、第七高等学校、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校および鹿児島水産専門学校を母体として、文理・教育・農・水産の4学部をもつ新制大学として設置されました。さらに昭和30年7月医学部および工学部が鹿児島県立大学からの国立移管によって増設され、ついで昭和34年4月大学院医学研究科が設置されました。昭和54年歯学部が新設され、平成10年医学部保健学科の増設により、現在の骨格が整いました。

大学の使命は、人類の知的遺産の継承、知的創造、人間性豊かで幅広い教養を備えた人材育成などであります。さらにその地域や世界の学術、教育、研究、文化の拠点としての役割を果たす点にあります。わが鹿児島大学は高等教育、学術研究を通じて大きな実績を残し、その使命を果たしてきましたが、現在は教育、研究のみならず、社会活動などに大きな成果をあげており、南九州地域の学術、文化の中心地として、その貢献は著しいものがあります。

鹿児島大学は、そのユニークな教育、研究でも定評があります。その中には、地震・火山、有機農法、ナノテクノロジー、病因解明、離島などをテーマとしたものが含まれます。離島医療学講座や医用ミニブタの開発などは日本唯一のものであります。大学あげての取り組みとしては、内之浦と種子島の2つのロケット基地を抱える県として宇宙総合科学にも取り組んでおり、南方への門戸としての多島圏研究センターも全学のバックアップで活動を続けています。バイオや水産の技術も世界に広く知られています。また、国際化にも全力を投入しており、その地理的条件と相まって300名を超す留学生を迎えており、国際学術交流協定大学も42大学となり、学生交流や国際的研究が盛んで、異文化を認めあう国際性を身につけるチャンスも増えています。

今、鹿児島大学は長い歴史と伝統を踏まえつつ、国立大学法人化を機に、21世紀の新しい総合大学の使命をさらに展開・発展させようとしています。

鹿児島大学の基本理念

(平成15年6月19日制定)

(鹿児島大学の使命)

鹿児島大学は、その拠点が、日本列島の南の玄関に当たり、古くから海外との交流や文化の移入の先進地であり、近代への先導者の輩出地であったこと、海洋と島嶼に恵まれ後世に遺すべき優れた自然環境と伝統、文化の地であることに鑑み、また、地球規模で新たな豊さを享受する時代が拓かれつつあるとの深い認識のもと、学問の自由と多様性を堅持し、自主自律の精神を涵養しつつ、「真善美壮を深く究めこれを具現し世界を先導する総合学術共同体」への持続的な展開をはかる。

すなわち、鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理観と芸術性を備え、怯懦を排して自ら困難に挑戦する人格を育成し、学術と学芸のあらゆる分野で新たな時代にふさわしい体系と枠組みを創出することによって、また、国際的視点を堅持しつつ地域社会に密着しその発展に貢献することを通じて、学術文化向上への寄与はもとより、基本的人権ならびに自由と自主の尊重、人類の福祉と連帯、国際理解と寛容、世界平和および地球環境の保全に留意した維持可能でかつ公正な社会の発展に寄与する。

(教育)

鹿児島大学は、開かれた大学として、学ぶ意欲と関心を自ら引き出す力のあるすべての人々を受け入れ、在学前後の教育機関やキャリア形成の種々の場との緊密な連携をはかりつつ、学生の潜在能力と適性の発見ならびにそれらの開花を促し、入学時の諸能力を顕著に発展させて大学の使命の実現に努めるとともに、これらを一層推進するための優れた教育の体系と方法を絶えず開発し展開することに努める。

(研究)

鹿児島大学は、知者不言を美德とする場を超え出て、個々の卓越性の明確な自認と発信を促進して、学生をもとめた个性的独創的研究を展開するとともに、先端化しつつも細分化される個々の分野の統合を念頭に置きながら、世界と地域が求める新たな学術の体系と枠組みの創出に果敢に挑みそれらを高度に達成することによって、世界を先導する総合学術共同体の実を挙げる。

(地域社会、国際社会との関係)

鹿児島大学は、その使命にかなう限り、地域ならびに国際社会のあらゆる領域の多様な要請に対応することを抱負とし、また、学術と学芸のすべての分野で得られた成果を積極的に普及、活用するために、情報の迅速な公開と発信に努め、施設の開放はじめ種々の公開事業、交流事業を通じて地域の振興と活性化に貢献するとともに、国際社会の連帯と協力に資する知的交流網の核となることによって学術の国際的進展を牽引し、同時に、これらの活動から広く啓発されることを喜びとする。

(組織運営)

鹿児島大学は、学生教職員の共同のもと、学部、研究科等教育研究上大きな役割を果たす基礎組織が大学全体の運営に等しく参画する機会をもつことはもとより、地域住民の参加と支援および学長による適切な指導的役割を重視し、弾力的で機動性に富む民主的組織運営を行う。

鹿児島大学は、その活動の点検評価に最適の体制を自発的に創出して機能させ、積極的に社会に対する説明責任を果たしつつ、学術の高度化、専門化の動向ならびに「男女共同参画」、「バリアフリー」等社会や地域の多様な要請に応えて、また大学の財務面、施設面にも配慮して、組織運営の不断の自律的改善に努め、安全で快適な総合学術共同体の一層の充実をはかる。

学 年 暦

学 年	前 期	4 月 1 日～ 9 月30日
	後 期	10月 1 日～ 3 月31日
入 学 式		4 月 3 日
休 業	春 季 休 業	4 月 1 日～ 4 月10日
	夏 季 休 業	8 月 1 日～ 9 月30日
	冬 季 休 業	12月25日～ 1 月 8 日
	鹿児島大学記念日	11月15日
卒 業 式		3 月25日

Contents

● 沿革概要図	2	● 卒業（修了）生数及び就職状況	40
● 運営機構図	4	● 学位授与状況	41
● 歴代学長	6	● 奨学生	41
● 役職員	6	● 国際学術交流協定大学	42
● 職員の現員	8	● 外国人研究者の受入状況	43
● 共通教育等	9	● 研究員等の受入状況	43
● 学部・大学院等	10	● 学術刊行物	43
● 山口大学大学院連合獣医学研究科	21	● 歳入歳出決算	44
● 附属図書館	22	● 各種学術研究費	44
● 学内共同教育研究施設	24	● 公開講座	46
● 全学共同利用施設	26	● 土地・建物・船舶	47
● 体育施設	26	● 地区別建物等配置図	48
● 厚生施設等	27	● 交通機関利用略図	51
● 全学合同研究プロジェクト	29	● 所在地一覧	52
● 学生の定員・現員	33	● キャンパスの全景	53
● 外国人留学生	36	● 鹿児島大学位置図	54
● 入学状況	38		

沿革概要図

藩学造士館—廃止 鹿兒島県立中学造士館—鹿兒島高等中学造士館—鹿兒島県尋常中学造士館—第七高等学校造士館—第七高等学校
 (安永2) (明4) (明17.12) (明20.12改称文部省直轄) (明29.9設置) (明34.3設置) 高等学校大学予科 (昭21.3改称)
 (1773)

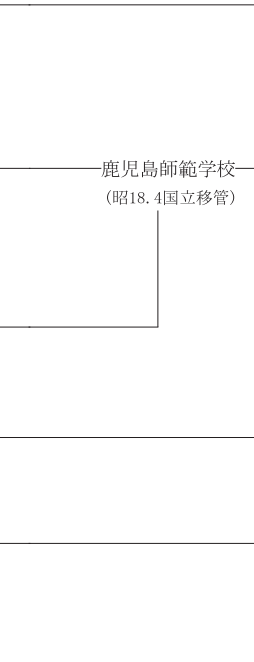
小学校授業講習所—鹿兒島師範学校—
 (明8.5) (明9.9改称)
 鹿兒島師範学校—鹿兒島県尋常師範学校—鹿兒島県師範学校—鹿兒島県第一師範学校—鹿兒島県師範学校—
 (明13.11合併改称) (明20.3改称) (明31.4改称) (大9.4改称) (昭9.3改称)
 小学正則講習所—鹿兒島女子師範学校—
 (明9.10改称)
 鹿兒島第二師範学校—
 (大9.4設置)
 鹿兒島県女子師範学校—
 (明43.4設置)

鹿兒島県立実業補習学校教員養成所—鹿兒島県立青年学校教員養成所—鹿兒島青年師範学校—
 (大13.4) (昭10.4改称) (昭19.4国立移管)

鹿兒島高等農林学校—鹿兒島農林専門学校—
 (明41.3) (昭19.4改称)

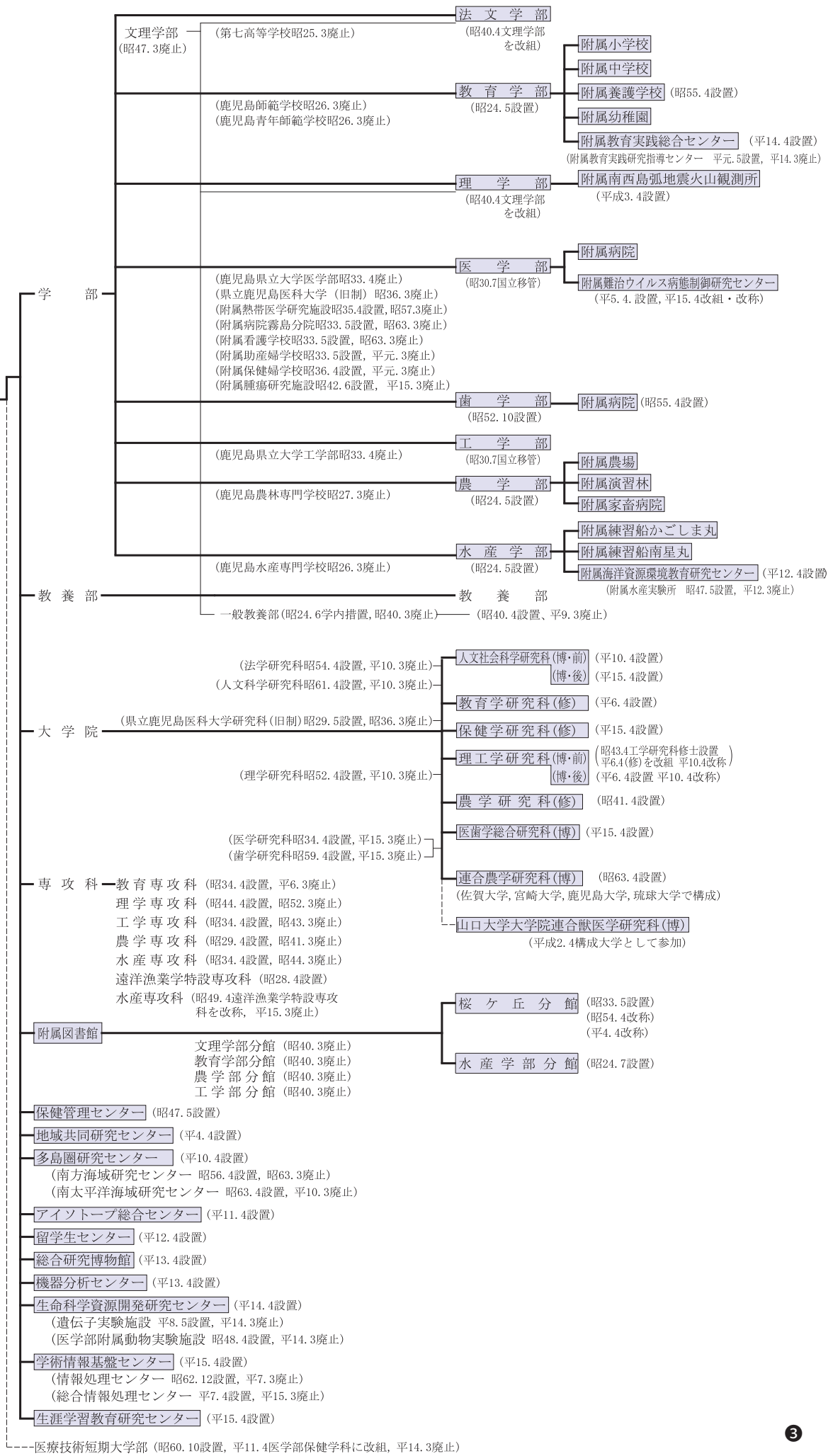
鹿兒島県立商船学校—鹿兒島商船学校—廃校—鹿兒島水産専門学校—
 (明41.5) (昭14.8国立移管) (昭21.2) (昭21.4設置)

島津藩医学校—鹿兒島県立医学校—廃止—鹿兒島医学専門学校—県立鹿兒島医科大学(旧制)—
 (明2.3設置) (明14改称) (明22) (昭18.4設置 昭27.3廃止) (昭22.6設置)
 島津藩病院—鹿兒島県病院—市立鹿兒島病院—県立鹿兒島病院—県立鹿兒島医学専門学校附属病院—
 (明2.3設置) (明4.7改称) (明26.9移管) (明40改称) (昭18.4移管改称)
 県立鹿兒島大学
 (昭24.2設置)
 医学部
 (昭27.2設置)
 鹿兒島県立大学
 (昭24.6改称)
 鹿兒島県立工業専門学校—
 (昭20.4設置)

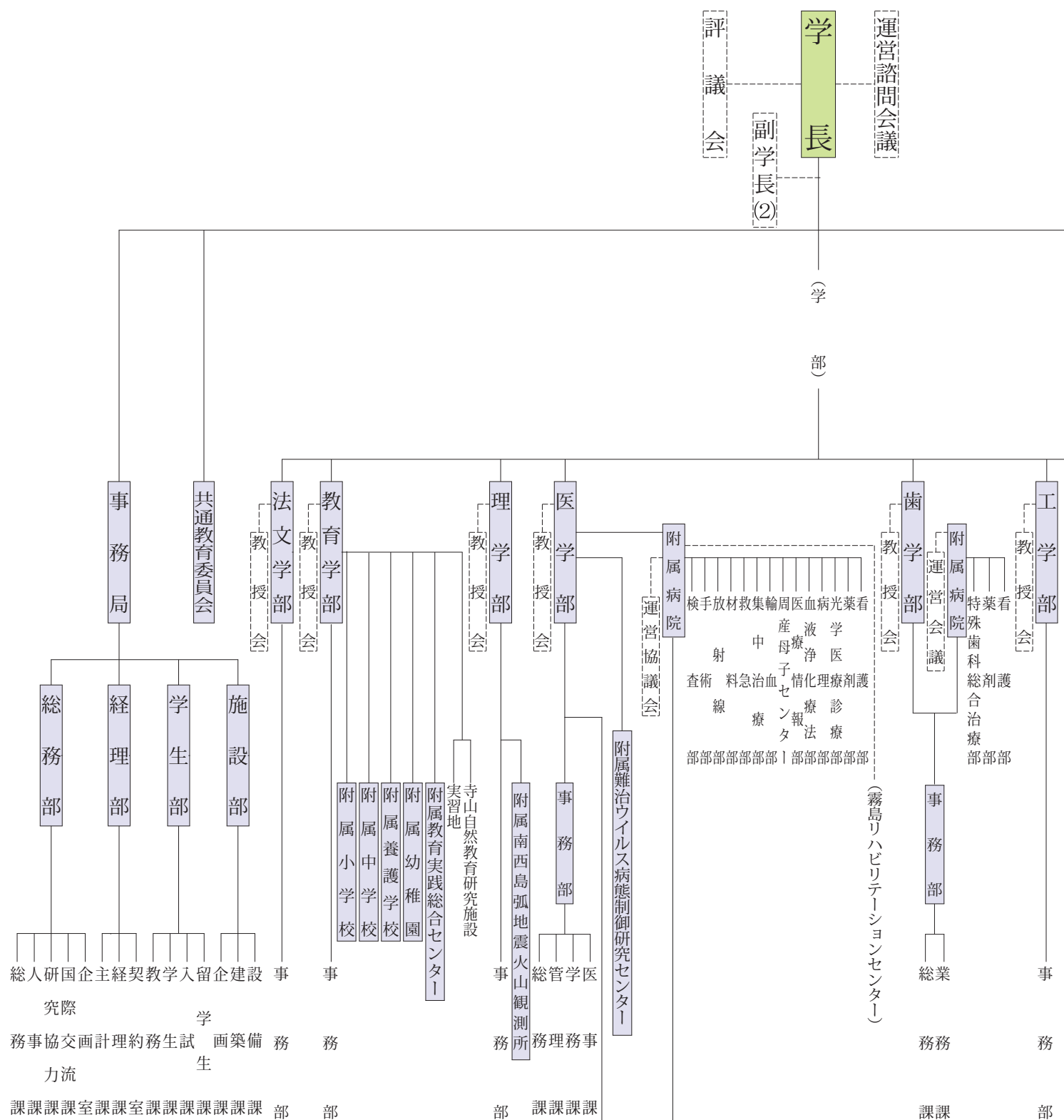


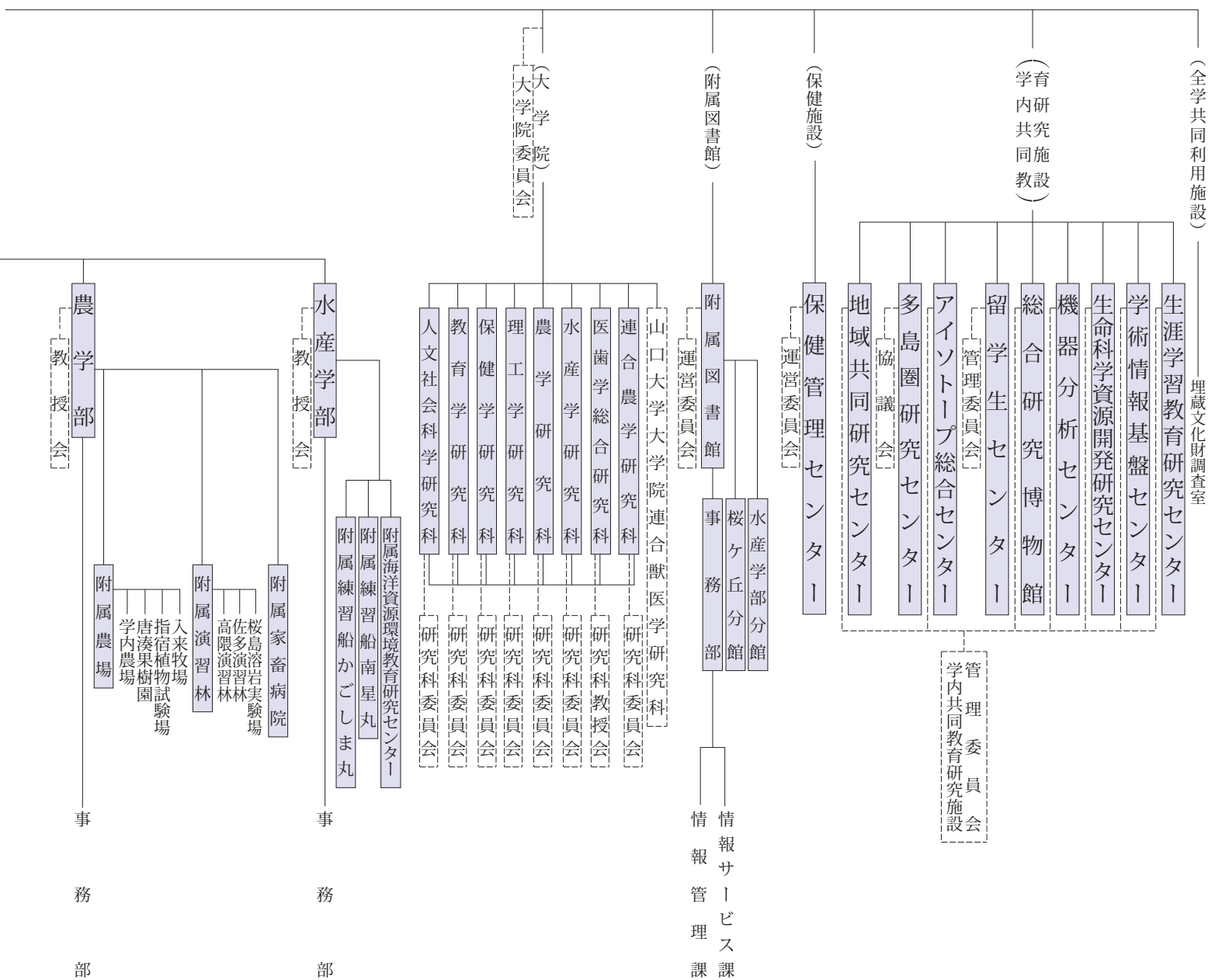
鹿児島大学

(昭24.5) 設置



運営機構図





歴代学長

氏 名	任 期	備 考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	学長事務取扱
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月20日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年 1月12日～平成 3年 1月11日	
〃	平成 3年 1月12日～平成 5年 1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年 1月12日～平成 9年 1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年 1月12日～平成15年 1月11日	
永 田 行 博	平成15年 1月12日～	

役 職 員 平成15年 5月 1日現在

●学長
永 田 行 博

●副学長
種 村 完 司
矢 野 利 明

●学長特別補佐
竹 田 靖 史

●学長補佐
熊 本 一 朗
越 塩 俊 介
橋 本 直 樹
早 川 勝 光
馬 嶋 秀 行
友 清 貴 和 (5/15～)

●運営諮問会議委員

消費生活アドバイザー
京セラ(株)取締役名誉会長
(株)南日本新聞社代表取締役社長
鹿児島商工会議所会頭
鹿児島県医師会会長
鹿児島県大学長
鹿児島県副知事
愛媛県環境創造センター所長
(株)南日本放送代表取締役会長
鹿児島県高等学校長協会理事長

●評議員

石 窪 奈穂美
稲 盛 和 夫
大 園 純 也
大 西 洋 逸 学
米 盛 山 秀太郎
芝 田 稔
脇 川 涼
立 川 博 美
豎 山 政 昭 (5/16～)

学 長 永 田 行 博
副 学 長 種 村 完 司
〃 〃 〃 〃
法 文 学 部 長 矢 野 利 明
法 文 学 部 教 授 村 吉 武 佳 朗
〃 〃 〃 〃
教 育 学 部 長 中 山 右 尚

教 育 学 部 教 授

〃 〃 〃 〃

理 学 部 教 授

〃 〃 〃 〃

医 学 部 教 授

医 学 部 教 授

歯 学 部 教 授

歯 学 部 教 授

工 学 部 教 授

〃 〃 〃 〃

農 学 部 教 授

農 学 部 教 授

〃 〃 〃 〃

水 産 学 部 教 授

水 産 学 部 教 授

〃 〃 〃 〃

附 属 図 書 館 長

医 学 部 附 属 病 院 長

歯 学 部 附 属 病 院 長

大学院医歯学総合研究科長

大学院医歯学総合研究科教授

〃 〃 〃 〃

大学院連合農学研究科長

共 通 教 育 委 員 会 委 員 長

地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー 長

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃

正 則 義 宏 利 己 夫 維 一 二 一 好 郎 臣 良 平 一 人 治 孝 保 己 紘 憲 啓 山 裕
紀 宜 政 俊 克 浩 典 殷 英 庸 洋 泰 悦 威 孝 耕 征 淑 尚
下 木 上 高 田 田 本 川 岡 澤 川 井 川 藤 木 田 中 田 甲 村 田 井 口 坂
木 鈴 井 面 富 吉 森 西 長 皆 福 下 衛 青 上 林 田 石 愛 三 吉 小 植 荒 谷 赤
〃 〃 〃 〃

●事務局

事 務 局 長 谷 川 満 吉 瀬
総 務 課 長 口 崎 尾 永 山
人 事 課 長 政 幸 俊 祥 泰
研 究 協 力 課 長 敏 一 一 二 彦

国 企 経 主 経 契 学 教 学 入 留 施 企 建 設	際 画 理 計 理 約 生 務 生 試 学 設 画 築 備	交 流 室 部 課 課 室 部 課 課 課 部 課 課 課	課 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	佐 徳 通 城 井 松 岩 瀧 漆 飯 平 本 蔵 松 上	久 重 山 上 上 尾 本 上 間 干 川 木 岡 田	敬 正 義 勝 博 義 勝 幸 秀 國 孝 秀	喜 潔 年 文 敏 之 男 躬 一 徳 昭 節 夫 力 孝
●保健管理センター				長	森	岡	洋	史
●地域共同研究センター				長	赤	坂		裕
●多島圏研究センター				長	野	田	伸	一
●アイソトープ総合センター				長	菅	沼	俊	彦
●留学生センター				長	大	嶋	眞	紀
●総合研究博物館				長	大	塚	裕	之
●機器分析センター				長	宮	崎	智	行
●生命科学資源開発研究センター				長	前	田	芳	實
●学術情報基盤センター				長	村	島	定	行
●生涯学習教育研究センター				長	神	田	嘉	延
●附属図書館								
附 桜 水 事 情 情	属 ヶ 産 学 務 報 サ	図 丘 学 部 管 理 サ	館 分 部 課 ジ ス	長 長 長 長 長	石 秋 松 森 吉 渡	田 山 田 松 田 邊	尚 伸 恵 睦 秀 俊	治 一 明 雄 紀 彦
●法文学部								
法 事	文 務	学 部	長 長	辰 田	村 多 園	吉 文	康 雄	
●教育学部								
教 附 附 附 附 事	育 小 中 養 幼 教育	学 学 護 稚 実践 総合	部 校 校 校 園 センター	長 長 長 長 長	中 西 松 西 久 川	山 種 田 永 種 子 留 内	右 田 君 郁 田 一	尚 弘 芳 彦 男 弘 芳 郎 輝

●理学部									
理学部	学	部	長	井角榎	上田蘭	政寿靖	義喜郎		
附属南西島弧地震火山観測所			長						
事務			長						
●医学部									
医学部	学	部	長	吉田浩己	田周	浩周	己二次		
附属難治ウイルス病態制御研究センター			長	出兼山	雲山西	精昭	一行		
事務部			長	兼山柿内	山西本	義芳	樹孝		
事務部			長	山柿内	山本橋	惠勝	孝一		
総管学医			長	石木愛	庭甲田	惠勝	士子		
附属病院			長	石木愛	庭甲田	惠勝	士子		
附属薬部			長	石木愛	庭甲田	惠勝	士子		
看			長	石木愛	庭甲田	惠勝	士子		
●歯学部									
歯学部	学	部	長	西月川	貫和	夫美	彦保		
歯事務部			長	月川貫	和政	夫美	彦保		
総務課			長	陶羽生	村登	志男			
附属病院			長	羽生村	登志				
附属薬部			長	羽生村	登志				
看			長	羽生村	登志				
●工学部									
工学部	学	部	長	長石澤	庸勝	二雄			
工事			長	石澤	庸勝	二雄			
●農学部									
農学部	学	部	長	下藤川	悦晋	郎輔	巳緝		
附属演習林			長	藤瀨田	名西	克義	久		
附属畜病院			長	瀨田名	西田	義			
附属農場			長	田名西	田				
事務			長	田名西	田				
●水産学部									
水産学部	学	部	長	上田耕	平侃	能郎	繁		
附属練習船かごしま丸			長	益東岡	政達				
附属練習船南星丸			長	東松					
附属海洋資源環境教育研究センター			長	松東					
事務			長	東					
●大学院医歯学総合研究科									
大学院医歯学総合研究科			長	吉田浩己					
●大学院連合農学研究科									
大学院連合農学研究科			長	荒井啓					
●大学院									
人文社会科学			長	辰村吉康	尚己	夫維	二郎		
教育学研究科			長	中吉森	田本	典	悦耕		
医学研究科			長	吉森西	川澤	川			
保健学研究科			長	森西	澤川				
歯学研究科			長	西澤					
理工学研究科			長	澤川					
農学研究科			長	川					
水産学研究科			長	田					
●共通教育委員会									
委員			長	谷口溪山					

職員の現員

●現 員

(平成15年5月1日現在)

部 局	職 別	学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	教 諭	小 計	事務官 技官等	合 計
学	長	1						1		1
事 務 局									163	163
附 属 図 書 館									19	19
桜ヶ丘分館									4	4
水産学部分館									2	2
保健管理センター				1				1	1	2
地域共同研究センター				1				1		1
学術情報基盤センター			2	2		1		5	3	8
多島圏研究センター			3	1				4		4
アイソトープ総合センター				1				1		1
留学生センター			2	2				4		4
総合研究博物館			1	3		1		5		5
機器分析センター				1				1	3	4
生命科学資源開発研究センター			2	1		2		5	3	8
法 文 学 部			57	50	1	4		112	14	126
教 育 学 部			59	36	4			99	27	126
附属教育実践総合センター			2	1	1			4		4
附 属 小 学 校							36	36	5	41
附 属 中 学 校							30	30	2	32
附 属 養 護 学 校							27	27	2	29
附 属 幼 稚 園							4	4		4
理 学 部			39	28	3	10		80	15	95
附属南西島弧地震火山観測所				1		1		2	1	3
医 学 部			25	9	5	22		61	52	113
附属難治ウイルス病態制御研究センター			3	3	1			7		7
附 属 病 院			1	7	29	65		102	480	582
歯 学 部									42	42
附 属 病 院				1	10	34		45	88	133
工 学 部			47	42	2	28		119	49	168
農 学 部			44	35	9	14		102	28	130
附 属 農 場				1		1		2	21	23
附 属 演 習 林			1	1				2	8	10
附 属 家 畜 病 院				1				1	2	3
水 産 学 部			21	17	5	6		49	14	63
附属練習船かごしま丸				1	2	2		5	30	35
実 習 船 南 星 丸				1		1		2	11	13
附属海洋資源環境教育研究センター			2	1		1		4	7	11
大学 院 医 歯 学 総 合 研 究 科			52	51	17	114		234		234
大学 院 連 合 農 学 研 究 科			1 (125)	(57)		(32)		1 (214)		1 (214)
大学 院 人 文 社 会 科 学 研 究 科			2					2		2
大学 院 理 工 学 研 究 科			6	4		4		14		14
計		1	372 (125)	304 (57)	89	311 (32)	97	1,174 (214)	1,096	2,270 (214)

(注) 1. () 書きは、兼任、併任教官数を外数で示す。

共通教育等



鹿児島大学では、平成3年の大学設置基準の大綱化にともない、組織改革と教育改革を実施した。「鹿児島大学の新しい教育」においては、これまでの一般教育科目等にかわって共通教育科目等を導入することとした。

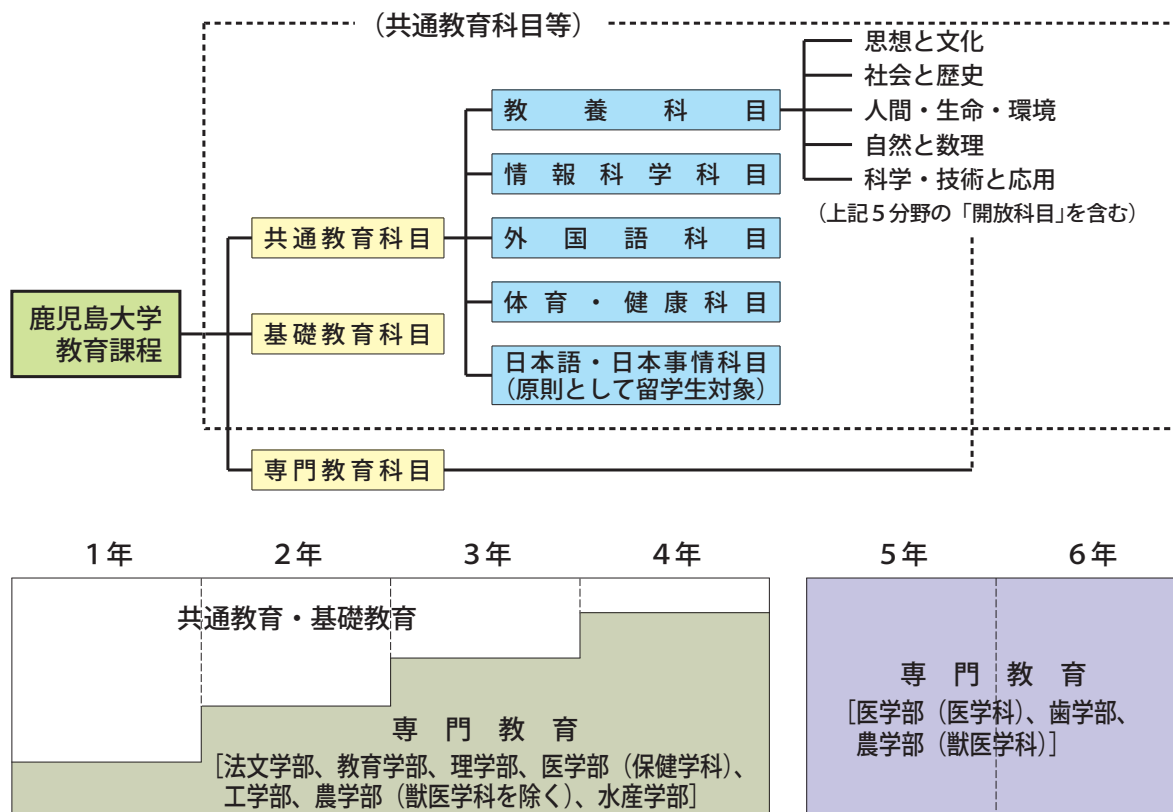
このため、平成9年3月に教養部を廃止し、それに代わる共通教育の企画・運営の責任組織として、鹿児島大学共通教育委員会を設置して、4（6）年一貫教育を全学教官の協力体制で実施している。

本学の教育は、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の三本柱に区分され、そのうち、共通教育科目は、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目および外国人留学生等のための日本語・日本事情科目から構成されている。教養科目には、専門教育科目の一部を他学部の学生が受講できるように開設している各学部の「開放科目」も含まれる。

共通教育にあっては、「基礎的な学力」と並んで、「幅広く深い教養」と「総合的な判断力」を有し、「豊かな人間性」を備えた人材を育成するために、以下に示す教育目標を設定している。

1. 自立心と公共心を育み、社会貢献意識を涵養する。
2. 思考過程を重視し、「多面的視野」、「総合的判断力」、「課題探求能力」を涵養する。
3. 情報処理技術と情報をもつ社会的・文化的な側面について理解し応用できる能力を育む。
4. 国際化が進展する現代社会に適切に対応するために、外国語によるコミュニケーション能力を育成し、異文化に対する理解を深め、相互理解と相互協力を推進する。
5. 生涯を通じた心身の健康と機能の増進・維持について、基本的な知識と、実践能力を啓発する。

(教育課程の構成)



学部・大学院等

法 文 学 部 人文社会科学研究科



●サテライト教室における授業風景

法文学部は、昭和24年鹿児島大学の発足に伴い、第七高等学校を母体として設置された「文理学部」を改組し、昭和40年4月から法学科、経済学科及び文学科の3学科をもって発足した。昭和54年4月の改組により文学科は人文学科に、平成9年4月の改組により、法学科は法政策学科に、経済学科は経済情報学科になった。また、昭和54年4月、法学研究科（修士課程）法学専攻が設置され、昭和61年4月には人文科学研究科（修士課程）文化基礎論専攻、地域文化論専攻が設置された。なお、平成10年4月には、法学研究科と人文科学研究科を発展的に解消し、人文社会科学研究科（博士前期課程）を設置し、法学、経済社会システム、人間環境文化論、国際総合文化論の4専攻を設け、更に平成14年4月には臨床心理学専攻（独立専攻）を新設し、5専攻となった。法学専攻、経済社会システム専攻及び臨床心理学専攻では社会人学生を受け入れている。

また、平成14年4月から串木野市にサテライト教室を開設し、実践的なプロジェクト型授業を提供している。更に平成15年4月から、博士後期課程の地域政策科学専攻を設置し、博士課程の学生を受け入れている。

創設以来本学部は、南九州における人文・社会科学に関する教育研究の中心として官界、産業界及び教育界に数多くの人材を送り出してきた。3学科に共通して言えることは、それぞれの専門的知識の修得に基づいた人間形成を目標としたカリキュラムの編成が行われていることである。ことに、平成9年4月の改組により、3学科ともに授業内容を充実し、新しい学問・研究・教育体系による情報化、国際化などの地域社会の変化に対応できる人材育成を目標としている。

学 科	講 座
法 政 策 学 科	政策科学、市民法、法交渉
経 済 情 報 学 科	経済システム、経営情報、地域計画、国際協力
人 文 学 科	人間科学、地域環境、日本・アジア総合文化、ヨーロッパ・アメリカ総合文化

研 究 科	課 程	専 攻
人文社会科学研究科	博士前期	法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻、臨床心理学専攻
	博士後期	地域政策科学専攻

教育学部

教育学研究科



教育学部は、明治の小学校授業講習所・師範学校以来、国民の知的水準の向上と文化の発展に責任感と使命感を持ち、積極的に寄与できる教員の養成を目指し、長年にわたって多くの有為な人材を世に送り、鹿児島県や九州各県の教育界はもとより広く各界に貢献してきた。

平成6年4月から大学院教育学研究科（修士課程）が開設され、教育研究や教員養成の機能をさらに高めるとともに、現職教員の同研究科受入により、現職教員の資質の向上と学部学生等との相互啓発を可能にしている。また、さらに平成13年4月より大学院は昼夜開講制度を実施し、より受講し易い体制を整えている。

現代社会の急激な変化や児童生徒の問題行動の多発等により、新しい時代の指導者の養成と学校における諸問題を的確に解決できる資質を備えた教員の養成が強く求められており、教育学部は、これらの社会的要請にこたえて、平成9年4月から教員養成に関わる課程を「学校教育教員養成課程」、「養護学校教員養成課程」の二課程に再編、整備するとともに、カリキュラム及び履修方法の全般的な改革を行った。同時に生涯教育が重視されるようになった新しい時代に対応するために、教育学部の特徴を生かしながら広く社会教育の分野などで活躍できる指導者の養成を目指し、「生涯教育総合課程」を開設した。

教育学部には、附属の教育実践総合センター・四つの附属学校園（小学校・中学校・養護学校・幼稚園）及び、寺山自然教育研究施設があり、実践的研究を深めるとともに学生の実習の指導に当たっている。



●絵画の授業風景

課 程 等	講 座 等
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育、教育学、心理学
養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	障害児教育
生涯教育総合課程	地域社会教育、国際理解教育、健康教育
附属教育研究施設	小学校、中学校、養護学校、幼稚園、教育実践総合センター

研 究 科	課 程	専 攻
教育学研究科	修 士	学校教育専攻、教科教育専攻

理 学 部

理工学研究科



●理学部 1 号館

理学部は昭和40年に第七高等学校を前身とする文理学部の改組拡充により発足し、昭和52年には大学院理学研究科が、さらに平成3年には附属南西島弧地震火山観測所が設置された。そして平成9年4月に、それまでの5学科（数学、物理、化学、地学、生物）が改組され、数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4学科に統合再編成され数理・情報・物理・宇宙・化学・生命・地球・環境の8教育コースを設けた。

さらに、平成10年4月には、大学院理学研究科を工学研究科と統合し、理工学研究科が設置され、理系の博士前期課程は数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4専攻に改組され、博士後期課程としては生命物質システム専攻が新設された。

平成13年4月に宇宙開発事業団、国立天文台との連携により「連携大学院」が設置された。連携する研究機関が所有する VERA 望遠鏡などの研究施設や最新の観測データを利用することができ、またこれらの研究機関の研究者から指導を受けながら、宇宙環境あるいは銀河の構造などの分野の学習や研究を進めることができる。

本学部は、南九州地区における唯一の理学部として、教育研究を進めるとともに、南九州の多様な自然環境に関連した研究を通じて、地域社会とも密接な関係を持ち連携しながら、その発展に貢献している。本学部における教育は、個々の専門分野での深い知識を与えることだけでなく、広く科学的な考えを身につけ、高度化した現代社会の要求に柔軟に応えることのできる人材を育成することを目標にし、21世紀における新たな展開を目指している。



●野外実習風景

学 科 等	講 座 等
数理情報科学科	数理構造、現象数理、情報数理
物理科学科	物性理論、固体物理、宇宙情報
生命化学科	分子機能化学、有機生化学、生命機能
地球環境科学科	地質科学、島弧火山、環境解析、多様性生物学
附属教育研究施設	南西島弧地震火山観測所

研 究 科	課 程	専 攻	
理工学研究科	博士前期	工学系	機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻、生体工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻
	博士後期	工学系	物質生産工学専攻、システム情報工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	生命物質システム専攻

医 学 部



●医動物実習

学 科 等		学 科 目 等
医 学 科		医学概説学、疾病病因学、疾病病態学、医学実践学、臨床実践学
保健学科	看護学専攻	総合基礎看護学、臨床看護学、母性・小児看護学、地域看護・看護情報学
	理学療法学専攻	基礎理学療法学、臨床理学療法学
	作業療法学専攻	基礎作業療法学、臨床作業療法学
附属教育研究施設等		平成15年9月まで： 医学部附属病院（19診療科710床（リハビリテーション科（霧島リハビリテーションセンター）50床含む）） 平成15年10月から： 医学部・歯学部附属病院 難治ウイルス病態制御研究センター
研 究 科	課程	専 攻
保 健 学 研 究 科	修士	看護学領域 ：基礎看護・地域看護学分野、 臨床看護学分野 理学療法・作業療法学領域 ：理学療法学分野、作業療 学分野

医学部の前身は、明治2年に設立された英国式の医学校の島津藩医学校である。初代の校長であったウィリアム・ウィリス博士は、鹿児島に西洋医学を紹介し、この学校で多くの日本人生徒の教育に努めた。

母体となる県立鹿児島医学専門学校は、昭和18年に開校し、その後、昭和22年に県立鹿児島医科大学、昭和27年に鹿児島県立大学医学部、昭和30年に国立移管され鹿児島大学医学部と変遷をたどった。

また、昭和49年に鹿児島市山下町の旧七高跡地から桜島を臨む高台の桜ヶ丘に移転し、現在に至っている。

本学部は、医学科（学科目制）、保健学科の3専攻（8講座）、附属施設（2施設）及び事務部で構成されている。中でも平成5年に設置された難治性ウイルス疾患研究センターは、平成15年4月、名称を難治ウイルス病態制御研究センターに改め、分子ウイルス感染研究分野、分子病理病態研究分野、抗ウイルス化学療法研究分野、感染宿主応答研究分野の4研究分野において難治性ウイルス疾患を対象とする基礎的・臨床的研究並びにその治療と予防に関する実践的研究を行うべく改編した。

医学科は、平成12年度から自ら問題を発見し、その解決方法を見いだすための一つの授業方法として、「チュートリアル教育」を3、4年生を対象に24の授業科目で、15室を使用し実施し、平成12年10月からは、大学卒業者を第2年次後期に編入学させる学士編入学制度をスタートさせた。

平成13年4月には、日本でもまた、世界でも例を見ない、離島の社会、文化、歴史の特性を踏まえたプライマリーケア（救急医療を含む）、高齢者医療、風土病への医療等を有機的に関連させる包括医療を実践的に教育・研究する「離島医療学講座」を設置した。

保健学科は、優れた医療技術者の育成を目指して、平成10年10月に設置され、平成11年4月から学生の受入を開始し、平成13年度からは、短期大学等から3年次への編入学の制度を導入した。

大学院医学研究科は、昭和34年に設置され、生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系の5専攻を置き、平成11年度から秋季（10月）入学制度及び昼夜開講の社会人入学制度を導入し、地域医療や医学関連分野で活躍している社会人に門戸を広げてきたが、平成15年4月から隣接する歯学研究科との統合改組を行い、大学院医歯学総合研究科（2専攻・14講座）として新たにスタートした。

また、大学院保健学研究科（修士課程；2領域、4分野）が、地域的視点に立ち、独自の保健・医療・福祉に目を向けつつ、医療技術のレベル向上に役立つ教育を行い、日本的・国際的に保健学の研究の発展に寄与するために、保健学科を基盤として平成15年4月に新設された。



●保健学科実習

医学部附属病院



医学部附属病院の前身である島津藩病院は、明治2年に設立された。その後、県立鹿児島医学専門学校附属病院、県立鹿児島大学医学部附属病院を経て、昭和33年に国立移管され、鹿児島大学医学部附属病院と改称した。また、昭和63年4月に霧島分院を廃止して、当地の豊富な温泉を利用した脳卒中片マヒや高次脳機能障害リハビリテーション、骨関節疾患の運動療法及び物理療法を主として行う霧島リハビリテーションセンターを設置した。

本院は、医学教育・研究実践の場であると同時に、地域における中枢的医療機関としての機能を果たしている。

現在、19の診療科、18の中央診療施設等、卒後臨床研修センター、クオリティマネジメント室、治験管理センター、薬剤部及び看護部で構成されており、特定機能病院として、重症・難病患者の診療、高度先進医療、末期医療への取り組み及び高齢化社会に対応した医療体制の確立に向けて、積極的に取り組んでいる。特に、全診療科出動方式による救急医療においては、確実に成果をあげている。

なお、平成15年10月から隣接する歯学部附属病院との統合を行い、新たに鹿児島大学医学部・歯学部附属病院としてスタートする予定である。



●医員（研修医）採用者ガイダンスにおける心肺蘇生演習



●手術風景

（平成14年度）

診療科名	患者数		病床数	診療科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
第一内科	18,315	21,441	50	泌尿器科	10,051	8,735	29
第二内科	19,150	18,530	55	眼科	9,581	21,071	29
第三内科	15,261	15,605	42	耳鼻咽喉科	11,087	13,946	34
リハビリテーション科	17,331	10,400	50	放射線科	8,284	6,956	23
神経精神科	12,934	13,250	45	産婦人科	15,955	14,296	48
小児科	13,826	13,274	40	麻酔科蘇生科	1,027	3,671	3
第一外科	17,594	8,341	51	小児外科	4,097	3,693	9
第二外科	17,889	8,352	52	心身医療科	1,809	9,849	5
脳神経外科	7,600	5,934	20	共用	(7,047)	0	43
整形外科	18,804	15,253	50	放射線治療室	(121)	0	3
皮膚科	9,640	13,114	29	計	230,235	225,711	710

（注）（ ）は再掲
共用 内訳（結核28床・感染7床・特別室8床）
病床数は予算病床

歯 学 部



歯学部は、沖縄を含む南九州全域における歯科医学の教育、研究の中核的役割を果たすべく、昭和52年10月に設置された。

歯科医学は口腔諸器官の構造と機能を正常に維持することによって、人間の健康を守る学問であり、本学部では、う蝕、歯周疾患、咬合異常、腫瘍、外傷、形成不全など正常な口腔機能とそれを損なう原因と予防法を総合的に追求し、その対策を研究するとともに、歯科医学を通じて社会の発展に十分に貢献しうる人材を育成することを目標にしている。

教育においては、人間形成に資するための共通教育科目を学習させることにも力を入れるとともに、歯学概論や社会歯科学をはじめ内科学、外科学など医学全般についても重視することとし、医学的学問を基礎とした歯科医学教育を目指している。また、独特な教育制度として、学生が講座の実験などに参加する選択科目制度を設け、学生が独自の個性と創造力を伸ばすことができるよう配慮している。

大学院歯学研究科（博士課程）は昭和59年4月に開設され、将来にわたって歯科医学の研鑽に努めようとする人のために、勉学・研究の場として設けられた。歯学研究科は平成15年度から医学研究科（博士課程）と統合して、大学院医歯学総合研究科（博士課程）に強化され、より広範な学術研究が可能となり、学位も博士（歯学）、博士（医学）、博士（学術）の三種から選択できるようになった。また、平成11年度より昼夜開講制度を取り入れ、社会人や研修医のまま大学院で研究することが可能となっている。



●授業風景

学 科 等	学 科 目 等
歯 学 科	歯科常態学、歯科病態学、発達育成歯科学、口腔顎面歯科学
附属教育研究施設	平成15年9月まで：歯学部附属病院（11診療科（歯科麻酔科を含む）、40床） 平成15年10月から：医学部・歯学部附属病院

歯学部附属病院



●診療風景

歯学部附属病院は、南九州唯一の歯科の教育研究病院として昭和55年に開院し、歯科医療の発展と地域住民の口腔保健の向上に貢献するとともに、歯科医療における2次・3次医療機関としての役割を果たしてきた。現在11診療科と一般歯科総合診療部、特殊歯科総合診療部、病室（40床）、手術室、リハビリテーション室などの中央診療施設を備え、一般的な歯科診療から高度先進医療まで、幅広い歯科医療を行い、地域の中核病院として、時代と地域の要望に添えている。

大学附属病院の使命として、歯科疾患の研究、新しい診断・治療法の開発に務め、歯学部学生に対する臨床教育、歯科医師に対する卒後臨床研修、研修登録医等に対する生涯研修を通じて、優秀な歯科医師を育成すると共に、県下の歯科衛生士学校・看護学校の受託実習なども引き受けている。

一方では、開院以来23年間にわたり鹿児島県との連携のもと、県内離島の無歯科医地区に巡回歯科診療班を毎年定期的に派遣し、その結果、乳幼児・学童の齲蝕が激減すると共に成人の口腔保健状況が著しく改善され、離島住民の歯科保健医療の向上にも寄与している。

なお、平成15年10月から隣接する医学部附属病院との統合を行い、新たに鹿児島大学医学部・歯学部附属病院としてスタートする予定である。

（平成14年度）

診療科名	患者数		病床数	診療科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
予防歯科	0	7,298	共通	矯正科	0	9,282	共通
保存科	0	11,514		小児歯科	41	9,401	
歯周病治療科	0	16,367		歯科放射線科	0	1,563	
第一補綴科	0	10,915		歯科麻酔科	2	1,706	
第二補綴科	0	11,401		特殊歯科総合診療部	0	743	
第一口腔外科	6,769	8,617		一般歯科総合診療部	0	4,041	
第二口腔外科	5,546	9,042		計	12,356	101,890	40

工 学 部

理工学研究科



●情報ネットワークの基礎実験

昭和24年4月鹿児島県立大学の発足に伴い、鹿児島県立工業専門学校を母体として工学部が設置され、同30年県立から国立移管され鹿児島大学工学部となった。創立時は4学科であったが、設置・改組を経て7学科となった。また、昭和43年4月には大学院工学研究科（修士課程）が設置されたが、平成6年4月博士前期課程（6専攻）として改組し、博士後期課程として物質生産工学専攻、システム情報工学専攻が設置された。さらに、平成10年4月には、大学院工学研究科と理学研究科とを統合し、理工学研究科が設置され、工学系の博士前期課程に6専攻、博士後期課程に2専攻が置かれた。平成13年4月には博士前期課程に生体工学専攻が平成14年4月には、博士前期課程、博士後期課程に独立専攻として、機械的エネルギー、分子構造、化学反応等で発現する様々な機能をナノスケールで融合・制御し、次世代機能材料の開発とその基本生成プロセス技術を可能とする教育・研究組織としてのナノ構造先端材料工学専攻が新設された。

工学部は工学を支える基礎研究の中核として、また、国際的視野を持った技術者の養成機関として果たすべき役割は極めて大きく、現代社会の多様化した要請に応じるには、新しい分野の開拓が必要である。

このような新しい分野を開拓すべく広い視野と問題発見及び解決能力のある柔軟な頭脳をもつ研究者・技術者の養成を目指している。

また、これまで以上に国際的に通用する技術者の育成を目指して、教育課程の見直し等を行い、J A B E E (日本技術者教育認定機構)への認定に向けての取り組みも行われている。

大学院は新しい分野の開拓とそれを担う研究者・技術者の養成に適した横断的な学問分野で構成されている。また、特別選抜の制度を設け指導方法などを工夫することにより、社会人技術者を積極的に受け入れる体制を整えている。

学 科	講 座	
機 械 工 学 科	設計生産システム工学、エネルギーシステム工学	
電 気 電 子 工 学 科	電子物性デバイス工学、電気エネルギー工学、通信システム工学	
建 築 学 科	建築構造構成学、居住環境構成学	
応 用 化 学 工 学 科	分子工学、機能材料工学、化学システム工学	
海 洋 土 木 工 学 科	環境システム工学、建設システム工学	
情 報 工 学 科	知能情報工学、情報システム工学	
生 体 工 学 科	生体機能材料、生体電子工学	
	京セラ経営学 (寄附講座)	

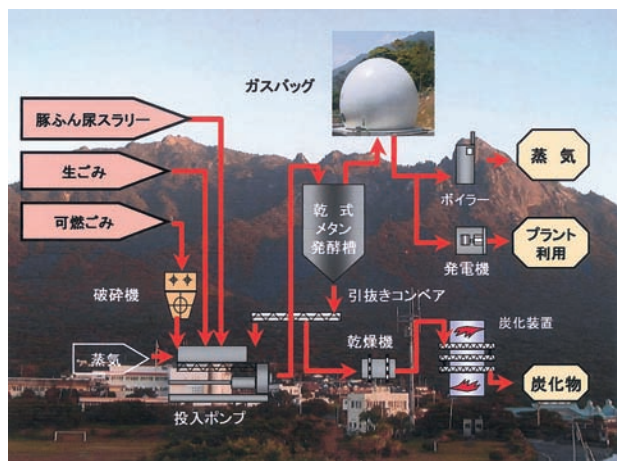
研 究 科	課 程	専 攻	
理工学研究科	博士前期	工学系	機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻、生体工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻
	博士後期	工学系	物質生産工学専攻、システム情報工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	生命物質システム専攻

農 学 部

農学研究科



●縄文スギと屋久島の森



●屋久島における循環型社会を創るゼロエミッションシステム

農学部は明治41年開設の国立鹿児島高等農林学校に始まり、昭和19年4月鹿児島農林専門学校と改称、昭和24年鹿児島大学農学部となった。当初の学部組織は農学科、林学科、蚕糸学科、農芸化学科、獣医学科、総合農学科の6学科であったが、その後数回の改組が行われ、現在は生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科、獣医学科の4学科構成となっている。さらに学部の上には、修士課程（農学研究科）及び博士課程（連合農学研究科、連合獣医学研究科）が整備され、教育と研究の充実を図り、多様化する社会のニーズや国際化時代に対応できる広い視野と、より高度な専門的知識と創造力を身につけた人材の養成を目指している。本学部は、多様な自然と生物資源に恵まれ、わが国有数の食料供給基地に位置する立地環境のもとで、衣食住の生活物資の持続的生産管理、生物の持つ生命機能を活かした人の健康の増進、人と自然との調和をはかり豊かな緑と潤いのある生活環境づくり、並びに高度の技術を活かした動物の疾病の予防と治療など、地域との連携をはかりながら、それぞれの分野で幅広い教育と研究を行っている。最近では地域社会の要請に応え、農学部が中心となって、「循環型社会システムの屋久島モデルの構築」（文部科学技術振興調整費 平成13～15年度）、「網掛川環境共生プロジェクト」（全学合同研究プロジェクト 平成13年度～）、「鹿児島大学牛海綿状脳症（BSE）対策プロジェクト」（全学合同研究プロジェクト 平成13年度～）、「食の安全と健康プロジェクト」（都市エリア産学官連携促進事業 平成14年度～）などの研究にも取り組んでいる。

学 科 等	講 座 等
生 物 生 産 学 科	作物生産学、園芸生産学、病虫害制御学、家畜生産学、農業経営経済学
生 物 資 源 化 学 科	生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学
生 物 環 境 学 科	森林管理学、地域資源環境学、農林工学、生産環境工学
獣 医 学 科	家畜解剖学、家畜生理学、家畜薬理学、家畜病理学、家畜微生物学、獣医公衆衛生学、家畜内科学、家畜外科学、家畜臨床繁殖学、産業動物獣医学
附属教育研究施設	農場、演習林、家畜病院

（注）獣医学科は学科目です。

研 究 科	課 程	専 攻
農 学 研 究 科	修 士	生物生産学、生物資源化学、生物環境学

水産学部

水産学研究科



●遠洋航海実習に出航するかごしま丸

水産学部は、本土最南端に位置する特徴を生かし、亜熱帯的特徴を持つ南西諸島を含む沿岸域を舞台とした地域社会との連携と東南アジア域を中心とした低緯度諸国の水産業を対象としたグローバルな課題を軸に、総合科学としての水産学教育・研究を推進している。

学部では、水産学の基礎的知識の修得に重点を置いた教育が行われており、水産学科（水産環境コース、水産社会コース、水産資源コース）と水産教員養成課程の1学科、1課程からなっている。水産学科においては、学生は教育コースにおいて専門分野を選択し、最終学年では下記の5大講座等に所属し、卒業研究に従事し、学部教育の総仕上げを行うと同時に、より高度な教育を受けるための素地を養うことを目標としている。水産教員養成課程においては、水産学科のカリキュラムに加え、水産高校教員免許取得のためのカリキュラムが組み合わされ、教員としての学識と豊かな人間性をもった人材養成を目標としている。本学部の特徴として、附属教育研究施設を活用した乗船実習等といった実地で学理・技術を修得するカリキュラムも多く盛り込まれている。

大学院水産学研究科（修士課程）では、今後ますます高度化していく水産分野に従事する高度な専門知識を有した技術者を養成することを目的としている。また、将来研究者としてより高度な技術者を目指し、博士（水産学）の学位取得を望む者には、鹿児島大学大学院連合農学研究科がある。

本学部と東京水産大学水産専攻科との連携による船舶職員養成課程は、学部での教育を基礎に海上での高度技術者を養成するためのもので、本学部卒業後、東京水産大学水産専攻科へ進学し、1年の課程（7ヶ月の乗船実習カリキュラムが組み込まれている。）を履修するものである。本課程を修了すると三級海技士（航海）の国家試験受験の際、学科試験が免除される特典がある。

また、本学部と本学大学院水産学研究科において、海技士に必要な乗船履歴等を得るための教育も行っている。所定の単位及び乗船実習を修得し、大学院を修了することで、この乗船履歴等を得ることができ、三級海技士（航海）の国家試験を受験することができる。

近年の海洋環境（特に沿岸海域）の破壊によって資源環境が危機的状況になりつつある中で、食糧生産の確保及び地球環境の保全といった時代の要請に応えるために、平成12年度に附属海洋資源環境教育研究センター（「生物多様性」「環境保全」「開発管理」の3分野）が設置され、当該分野における人材育成、研究成果の地域社会への還元及び国際貢献を図ることとしている。

学 科 等	講 座 等
水 産 学 科	環境情報科学、漁業基礎工学、海洋社会科学、資源育成科学、資源利用科学
水産教員養成課程	
附属教育研究施設	附属練習船かごしま丸（1,297トン）
	附属練習船南星丸（175トン）
	附属海洋資源環境教育研究センター
	資源利用科学実習棟、回流水槽実験棟、鴨池海洋生産実験室

研 究 科	課 程	専 攻
水 産 学 研 究 科	修 士	水 産 学 専 攻

大学院医歯学総合研究科



大学院医歯学総合研究科（2専攻14講座）は、多様な社会的要請に迅速に対応するとともに、医学・歯学の各教官が「医の倫理観を備えた全人的資質」を備え、高度な教育と先端的研究を効率的に実施し解決するため、

生命科学領域の教育研究リーダーの育成
地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出
専門性を備えながら医の倫理観を備えた全人的資質を有する
生命医療職業人の育成

を目標にし、生命現象の逸脱の予防と修正（治療）を使命とする医学と歯学が有機的に結合され、より柔軟で広範な生命医療科学の発展が期待できる大学院組織として、平成15年4月に医学研究科と歯学研究科を統合再編し設置された。

本研究科では、これまでの学問分野を配慮し、これからの医療において普遍的な課題の克服と先端治療の開発を目的とする課題別講座、鹿児島県の地域特性及び先端性に特化した新分野（島嶼圏医療、ミニ豚開発・育成）を発展させるプロジェクト講座及びこれからの宇宙医学の研究のための外部試験研究機関（宇宙開発事業団）との連携講座を設けている。

また、本研究科は、医、歯学部を中心とする生命科学領域の卒業生ばかりでなく、医療技術や看護学などの医療領域、農・理・工学部などの生命科学や合成化学の領域、人間工学、情報処理などに関する理工学、医療社会学や医療経済学などの人文社会科学領域の学部卒業生や修士課程修了生へも門戸を広げている。

課 程	専 攻	講 座
博 士	健 康 科 学	人間環境学、社会・行動医学、感染防御学、発生発達教育学、国際島嶼医療学（プロジェクト講座）、宇宙環境医学（連携講座）
	先 進 治 療 科 学	神経病学、感覚器病学、運動機能修復学、循環器・呼吸器病学、生体機能制御学、顎顔面機能再建学、腫瘍学、再生・再建移植学（プロジェクト講座）

大学院連合農学研究科



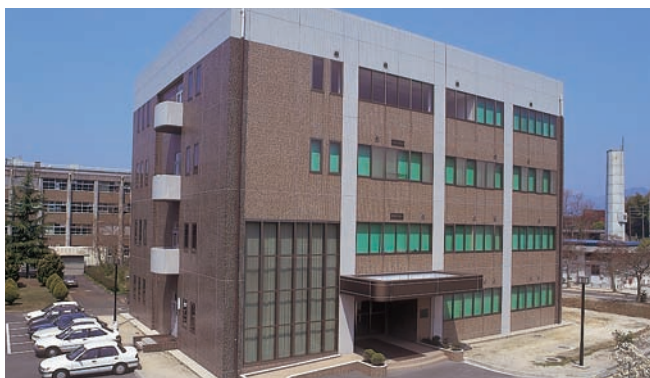
●共通セミナー（一般）風景

大学院連合農学研究科は、本学を設置大学とし、佐賀大学と宮崎大学を参加大学とする後期3年の独立研究科（博士課程）として昭和63年4月に設置された。平成4年4月には新たに琉球大学の参加が認められ、4大学5研究科の修士課程と附属施設を母体とする体制となった。本研究科は、4大学が連合して共通の博士課程の教育研究を行うという全く新しい制度として発足したものであるが、このことによって各構成大学の教官が密接に関連を持つようになり、大学の枠を越えた、かつ専門領域を越えた協力関係が可能になっている。また、本研究科は、九州・沖縄地区の食糧生産基地としての重要性に立脚し、その専攻に、他の地区の連合農学研究科にはない水産学系専攻を設けていることが大きな特色となっており、農学及び水産学に関する幅広い教育研究を行っている。学生の指導体制については、学生1人について、主指導教官1人と副指導教官2人が研究指導に当たるなど、極めて効率的なものとなっている。また、単位制の授業は行わないが、広く農学及び水産学に関する知識を修得させるとともに、自己の専門分野に深い関連のある分野の知識を修得させるために共通セミナー（一般及び特別）を開講し、その修得を学位申請の必須条件にしている。

課 程	専 攻	連 合 講 座
博 士	生 物 生 産 科 学	植物生産学、動物生産学、農林資源・経営学、熱帯資源生物学
	生物資源利用科学	応用生物化学、資源利用化学、生物機能開発学
	生物環境保全科学	生物環境保護学、生物生産工学
	水 産 資 源 科 学	海洋生産環境学、水産資源利用学

（注）連合農学研究科は4大学（佐賀、宮崎、鹿児島、琉球）で構成。

山口大学大学院連合獣医学研究科



連合獣医学研究科は、平成2年4月に鹿児島大学、鳥取大学、山口大学及び宮崎大学が連合して設置された修業年限4年の博士課程である。基幹校は山口大学で、四大学が連合して共同研究や学術研究などを通じて幅広い教育研究が行われている。

本研究科は、1専攻（獣医学専攻）で、3連合講座から成り、学生の入学定員は12名であるが、学術研究の高度化、国際化及び社会人の再教育などの社会的ニーズに対応するために、獣医学士のみならず、他の分野の卒業生、外国人及び社会人を積極的に受け入れ、創造性豊かな研究者や高度の専門的知識と能力を有する人材を養成している。学生1人につき、主指導教官1人、副指導教官2人が指導に当たるが、他大学の教官並びに学生相互の討論を通して、自己を高めると同時に相互の親睦と連帯感の形成に役立てている。

課 程	専 攻	連 合 講 座
博 士	獣 医 学	基礎獣医学、病態・予防獣医学、臨床獣医学

（注）山口大学大学院連合獣医学研究科は4大学（鳥取、山口、宮崎、鹿児島）で構成。

附属図書館

附属図書館は、中央図書館（郡元地区）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘地区）及び水産学部分館（下荒田地区）の3館で組織されており、教育・研究に必要な図書館資料を広い分野にわたり収集し利用に供している。利用者は、中央図書館及び二つの分館を共通に利用できる。

利用者サービスとしては、閲覧・貸出をはじめ、所在調査・事項調査等のレファレンス・サービス、学内外の図書館間相互利用による文献複写・現物貸借、利用指導等を行っている。

さらに、キャンパス情報ネットワークやインターネットを駆使した蔵書検索、文献情報検索、電子ジャーナルの導入等、学内における学術情報のポータルサイトの役割を果たすため電子図書館の整備充実に努めている。

中央図書館は、国立大学の9館に設置してある「外国雑誌センター館」の一つとして、農学系の雑誌を収集し、全国共同利用機関としてのサービスを行っている。

一般市民等の生涯学習を支援するために広く公開し、放送大学の学生をはじめ、多くの市民が利用している。平成11年度から図書館内に配置している図書の貸出サービスも行っている。

島津久光及び玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書を所蔵しており、これらの貴重書は、大学公開の一環として平成11年度から毎年、図書館内と県内各地の公共施設で公開展示している。

●開館時間

区 分	授 業 期			休 業 期・3月		
	月～金	土	日	月～金	土	日
中央図書館	9:00 ～20:00	10:00 ～17:00	10:00 ～17:00	9:00 ～17:00 (*3月を除く)	閉 館 (*3月を除く)	閉 館 (*3月を除く)
桜ヶ丘分館	9:00 ～21:00	10:00 ～18:00	10:00 ～18:00	9:00 ～21:00	10:00 ～18:00	10:00 ～18:00
水産学部分館	9:00 ～20:00	10:00 ～17:00	閉 館	9:00 ～17:00	10:00 ～17:00	閉 館

*中央図書館は3月の土・日については、10:00～17:00の開館



●中央図書館

●休館日

- ・「国民の祝日に関する法律」に規定する休日及び振替休日
- ・鹿児島大学記念日（11月15日）
- ・年末・年始（12月27日～1月5日）
- ・その他、臨時に休館する場合があります。

●蔵書数

図書(冊)

(平成15年5月1日現在)

区 分		総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計
和 漢 書	中央図書館	68,556	45,110	77,602	210,172	116,731	73,230	57,256	30,518	28,126	72,807	780,108
	桜ヶ丘分館	1,105	1,862	748	5,777	93,614	1,230	406	682	1,917	1,473	108,814
	水産学部分館	2,334	560	1,965	13,690	15,046	9,489	16,050	1,084	1,371	775	62,364
	小 計	71,995	47,532	80,315	229,639	225,391	83,949	73,712	32,284	31,414	75,055	951,286
洋 書	中央図書館	16,626	19,679	17,635	54,150	85,706	20,307	20,698	4,585	13,586	34,126	287,098
	桜ヶ丘分館	949	334	115	688	79,531	104	85	85	468	469	82,828
	水産学部分館	777	135	323	1,076	6,300	2,898	4,699	302	360	87	16,957
	小 計	18,352	20,148	18,073	55,914	171,537	23,309	25,482	4,972	14,414	34,682	386,883
合 計		90,347	67,680	98,388	285,553	396,928	107,258	99,194	37,256	45,828	109,737	1,338,169

雑誌(種類数)

区 分	和 漢 書	洋 書	計
中央図書館	14,176	7,205	21,381
桜ヶ丘分館	3,139	2,309	5,448
水産学部分館	1,920	925	2,845
合 計	19,235	10,439	29,674

●中央図書館（地上5階地下2階建 延床面積 12,697㎡）

（平成15年5月1日現在）

区分	室名及びコーナー	内 容	区分	室名及びコーナー	内 容	
地下1階	開 架 書 庫	新聞、洋雑誌（1979年以前）、 和雑誌、政府刊行物等、コピー機(公費用)、 OPAC用端末1台	3階	固 定 書 架 集 密 書 架 参 考 図 書 コ ー ナ ー 放送大学教材コーナー 郷 土 資 料 コ ー ナ ー P A C S コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー ラ ウ ン ジ 研 究 個 室 31 ～ 36 グ ル ー プ 学 習 室 31	一般図書（総記、哲学、歴史、社会科学） 国内大学の紀要 辞典・辞書類 放送大学教材 鹿児島県関係資料、玉里文庫複製本等 OPAC用端末1台、教育研究用端末2台 プリペイドカード式コピー機1台	
地下2階	開 架 書 庫	稀用図書、OPAC用端末1台		4階	固 定 書 架 集 密 書 架 参 考 図 書 コ ー ナ ー P A C S コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー ラ ウ ン ジ 研 究 個 室 41 ～ 46 研 究 者 談 話 室	一般図書（自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学） 稀用図書（洋書）、大型コレクション 辞典・辞書類 OPAC用端末1台、教育研究用端末2台 プリペイドカード式コピー機1台
1階	メインカウンター レファレンスカウンター P A C S コ ー ナ ー 新聞閲覧コーナー 参考図書コーナー 国際交流コーナー 地形図コーナー 本学関係者著作寄贈図書コーナー A V コ ー ナ ー 展 示 コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー カード目録コーナー マルチメディア端末室 リーダープリンタ室 視聴覚・マイクロ資料室	貸出、返却、利用案内等 参考調査、相互貸借受付 OPAC用端末5台 地方紙を含む新聞 辞典・辞書類、二次資料、蔵書目録 留学生、国際理解のための図書資料 日本全国の5万分の1の地形図 本学関係者著作及び学内発行紀要等 CS放送設備、ビデオ・ライブラリー装置、CD-ROM視聴端末6台 展示ケース2台 カラーコピー機1台(公費用)、プリペイドカード式コピー機1台 書名・著者名目録 教育研究用端末14台 リーダープリンタ2台、リーダー2台 視聴覚・マイクロ資料、テレビデオ2台			5階	A V ホ ー ル 貴 重 書 庫 貴 重 図 書 閱 覧 室 特 殊 資 料 書 庫
2階	固 定 書 架 集 密 書 架 ブラウジングコーナー 新 着 雑 誌 コ ー ナ ー P A C S コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー 研 究 個 室 グループ学習室21～22	外国雑誌バックナンバー（1980年以降） 同上 一般雑誌、グラビア誌 国内及び外国新着雑誌 OPAC用端末1台、教育研究用端末2台 コピー機1台(公費用)、プリペイドカード式コピー機1台 6室 2室（各定員12名）				

●桜ヶ丘分館（地上3階建 延床面積 1,980㎡）

区分	室名及びコーナー	内 容
1階	カ ウ ン タ ー P A C S コ ー ナ ー 目 録 コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー 新聞閲覧コーナー 新着雑誌展示室 書庫（集密書架）	教育研究用端末8台 カラーコピー機1台（公費用） 新聞 新着雑誌 稀用資料
2階	P A C S コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー CD-ROM コ ー ナ ー	教育研究用端末2台、OPAC用端末1台 コピー機1台（公費用）、プリペイドカード式コピー機1台 CD-ROM視聴端末1台 参考図書、二次資料 カレント雑誌 欧文雑誌バックナンバー
3階	P A C S コ ー ナ ー 複 写 コ ー ナ ー ビ デ オ コ ー ナ ー	教育研究用端末2台、OPAC用端末1台 プリペイドカード式コピー機1台 一般図書 和文雑誌バックナンバー テレビデオ2台



●桜ヶ丘分館

●水産学部分館（地上2階建 延床面積 849㎡）

区分	室名及びコーナー	内 容
1階	カ ウ ン タ ー P A C S コ ー ナ ー 新聞閲覧・新着雑誌コーナー 複 写 コ ー ナ ー ロ ッ カ ー 書 庫	OPAC用端末4台、CD-ROM視聴端末1台 新聞・新着雑誌 カラーコピー機1台（公費用） 稀用図書、雑誌
2階	閱 覧 室 P A C S コ ー ナ ー 視 聴 覚 室 雑 誌 室 複 写 コ ー ナ ー	一般図書、参考図書、逐次刊行物、修士論文 教育研究用端末7台 ビデオ資料 国内大学紀要 プリペイドカード式コピー機1台



●水産学部分館

学内共同教育研究施設

地域共同研究センター

地域共同研究センターは、本学と地方公共団体や民間企業との相互協力による共同研究等を推進し、本学の教育研究の進展に資するとともに地域社会における技術開発及び技術教育等の振興に資することを目的として、平成4年4月に設置された。

センターでは、本学の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを行うとともに、各種セミナーや技術研修等を行っており、産学官連携の窓口として、重要な役割を担っている。



多島圏研究センター

多島圏研究センターは、アジア太平洋の多島域について、学際的な調査研究を実施して学術の国際交流を図り、これらの地域の福祉発展に寄与することを目的として、平成10年4月に設置された。

センターでは、①人と自然の相互作用、②地形・生物伝播等の自然地理、③社会・文化変容と自然環境、④社会医学的環境、⑤国際社会の島嶼国家の役割、の5つの課題を設定し、学内兼務教官や学外協力者と連携協力しながら、フィールドワークを重視した研究活動に取り組んでいる。



アイソトープ総合センター

アイソトープ総合センターは、本学の放射性同位元素（R I）を利用する教育研究に資するとともに、安全管理に関し中心的な役割を担うことを目的として、平成11年4月に設置された。

センターは、学内の各R I施設と連携して、①R Iの安全管理、②R I取扱者に対する教育訓練、③最新のR I実験方法等の情報収集・提供など、R Iの利用に関する総合的な業務を行うこととしているが、センター施設が未整備なため早急な施設整備が望まれている。

留学生センター

留学生センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する本学の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。

この目的のために、外国人留学生に対する、日本語予備教育、日本語及び日本事情に関する教育、修学上及び生活上の指導助言、さらに外国人留学生と地域社会との交流の推進や、海外留学を希望する学生への情報提供及び指導助言等の業務を行っている。

総合研究博物館

総合研究博物館は、学内の貴重な学術資料を一元的に整理・管理・展示公開して研究・教育に効果的に利用し、さらに広く一般社会へ学術標本に関する情報を発信する役割を担うことを目的として平成13年4月に設置された。

博物館では、

- 1) 学術資料を活用した教育環境の実現
 - 2) 学際的分野の要請に応える標本情報の提供
 - 3) 大学と地域との連携を強化する公開展示、公開講座、講演会の開催
 - 4) 国際的な学術標本の相互利用・交換の促進
- を学内外の協力者とともに取り組んでいる。



●第2回特別展「地球からのめぐみ—金—」に展示した日本の金山と金鉱石

機器分析センター

機器分析センターは、各学部に分散して運用してきた共用性の高い大型機器を集約し、組織的・体系的に研究支援、保守管理を行うことを目的として、平成13年4月に設置された。

センターには、現在16の機器装置が登録されており、研究者が質の高い研究を行い、その成果を社会に還元していくことを支援し、本学の研究者だけでなく、地域に開かれたセンターとして学外の研究者との積極的な交流も図り、共同研究等の支援も行う。



●共同利用機器 X線マイクロアナライザー

生命科学資源開発研究センター

生命科学資源開発研究センターは生命科学分野の教育研究の総合推進を図ることを目的として、平成14年4月に設置された。センターは1) 遺伝子研究分野、2) 実験動物研究分野、3) 医用ミニブタ研究分野の3研究分野から構成されている。

- 1) 遺伝子研究分野は平成8年に設置が認められた遺伝子実験施設が前身である。施設は郡元キャンパスにあり、物理的封じ込めP3レベルまでの実験室や放射性同位元素(RI)を使用できる各種実験室が整備されている。進展著しい遺伝子に関連する分野の教育研究の支援に取り組み、本学におけるバイオサイエンスの発展に貢献している。
- 2) 実験動物研究分野は、昭和50年4月に開設された医学部附属動物実験施設が前身で、施設は桜ヶ丘キャンパスにある。SPF動物、遺伝子改変動物、一般動物等の飼育室、手術室およびエックス線室等が整備されている。動物福祉に配慮した適正な動物実験の遂行のため、実験動物及び動物実験に関する教育研究に取り組んでいる。
- 3) 医用ミニブタ研究分野は、臓器移植、ヒトの疾病予防・治療をはじめとする様々な生命科学研究のための医用ミニブタ(異種臓器移植ドナーミニブタ及び遺伝子改変ミニブタ)の研究開発を目的として、新しく設置された。本学で行われる生命科学研究の推進をはじめ新しい研究領域の発展が期待される研究分野である。



学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報通信基盤を担う中核的存在として、教育研究用計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理を行うほか、情報通信技術分野の研究開発を推進することを目的として平成15年4月に設置された。情報通信基盤研究部門、メディア教育研究部門、学術情報資源研究部門の3研究部門を有し、情報通信基盤研究部門では教育・研究の高度化・多様化に対応した高速・高信頼ネットワークシステムの研究開発、メディア教育研究部門では情報通信技術を利用したマルチメディアコンテンツの作成・蓄積・発信に関する研究開発、学術情報資源研究部門では学術情報データベース構築、学術情報発信など研究コンテンツに関する研究開発を行っている。



生涯学習教育研究センター

生涯学習教育研究センターは、鹿児島大学が蓄積する知的資源との関係から生涯学習を研究し、また、各地域の特性に基づく生涯学習の課題と方法を、関係機関との共同連携により研究開発し、各地域のニーズに従って生涯学習の講座、セミナー、シンポジウムを提供し、その指導者の養成も含め、鹿児島大学が地域に貢献する教育研究センターである。

全学共同利用施設

埋蔵文化財調査室

鹿児島大学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパス、唐湊学生寮、入来牧場などは、旧石器時代から近代の長期間にわたる遺跡が包蔵されている。特に、近年の建設ラッシュに伴い、平野部に位置する郡元キャンパスでは、弥生時代から古墳時代の河川に囲まれた集落遺跡と水田跡などの生産遺跡の様相が判明しつつある。また、シラス台地上に位置する桜ヶ丘キャンパスでは、後期旧石器時代の陥穴（おとしあな）や、縄文時代早期の住居跡、弥生時代前期～中期前半の集落跡などが確認されている。

埋蔵文化財調査室では、キャンパス内遺跡の発掘調査を行い、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成を行なっている。調査時には、一般市民むけの体験発掘や、遺跡見学会を開催し、これまでの調査・研究については、埋蔵文化財調査室年報として年次刊行し、また、ホームページも作成してその成果を広く公表している。



●弥生時代前期の住居跡。屋内に受熱した竈が2つに割りとられ、口と底、表と裏を逆にして置かれている。住居廃絶に伴う祭祀行為の痕跡か。（桜ヶ丘キャンパス：難治性ウイルス疾患研究センター増築地：年報16（2002年））

稲盛会館

会館は本学工学部出身の京セラ(株)名誉会長稲盛和夫氏から科学技術を中心とした知的交流を促進するための場として本学に寄贈されたもので、日本を代表する著名な建築家安藤忠雄氏の設計によるものである。

(1) 利用目的

教育及び学術の交流の場として本学の職員その他関係者の利用に供することにより、本学の教育研究の進展に資するとともに、学術及び文化の向上に寄与することを目的としている。

(2) 施設の概要

会館は①地下1階～地上3階建、②建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡、③ホール、ロビー、ホワイエ及び会議室からなる。

(3) 利用方法等

研究会、国際会議、講演会及び公開講座等に利用でき、利用希望者は事前に使用許可申請書を管理局の工学部に提出し学長の許可を受ける。



体育施設

施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	8面
第1体育館	郡元地区	1,121㎡
第2体育館	〃	2,612㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,076㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	450㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m (7コース)



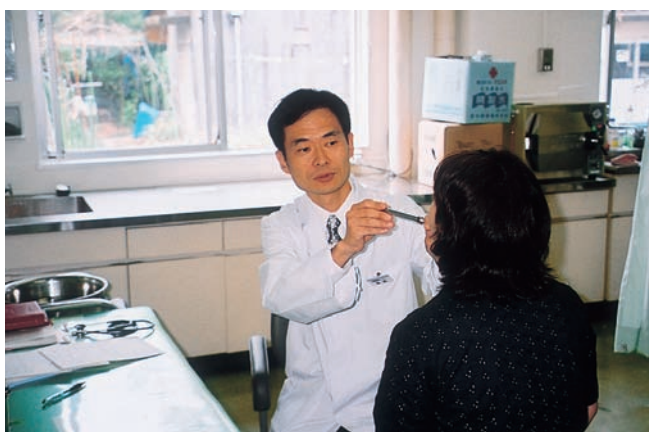
保健管理センター

保健管理センターは、学生の心身の健康の保持増進を目的として昭和47年に設置された。

センターはこの趣旨に沿い、現在、以下の業務を行っている。

- ①定期健康診断 ②特別健康診断並びに臨時健康診断 ③心理相談並びに学生相談 ④日常の一般診療 ⑤健康診断書発行
⑥健康教育活動 ⑦その他

なお、これらの業務には、主として、センター専任の医師、看護師、栄養士等があたっているが、この他にも、医学部及び同附属病院から、内科、精神神経科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が学医として、また、法文学部、教育学部の心理学の先生方がカウンセラーとしてそれぞれ診療やカウンセリングにあたっている。



診療科目	曜日	時間
内科	月・水・木・金	9～11時 14時～16時
精神神経科	月・水・木・金	9～11時 14時～16時
	水(第2・第4)*	14時～16時(桜ヶ丘分室)
心理相談	木(第1・第3)*	14時～16時
	金(第2・第4)*	14時～16時
眼科	水(第1・第3)*	14時～16時
整形外科	木(第1・第3)*	14時～16時
耳鼻咽喉科	木(第2・第4)*	14時～16時
特別健康診断・ 臨時健康診断	火	9～11時 14時～16時

(ただし、緊急の場合は、この限りではありません)

定期健康診断実施期間(4～5月)及び春・夏・冬休暇期間中は、心理相談、眼科、整形外科、耳鼻咽喉科及び桜ヶ丘分室の精神科は休診です。

大学会館

大学会館は、学生相互並びに学生と教職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、1号館が昭和47年3月、2・4号館が昭和36年5月、3号館が昭和37年8月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日及び12月29日から翌年1月3日までとなっている。



● 1号館

建物名称	階別	施設名	用途等
1号館 (1,409㎡)	1	軽食堂	喫茶、食事 (64席)
		理髪室	理髪 (4台)
	2	共用談話室	休憩、談話 (52人)
		音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (56人)
		会議室(1・2)	会議、研究会等 (42人・20人)
	3	和室(1～5)	会議及び邦楽、茶道、華道等の練習 8帖 2室 12帖 2室 45.5帖 1室
	4	ホール	音楽会、講演会、研究会等 (300人)
2号館 (779㎡)	1	小集会室	会議、展示会等
	2	サークル連絡室	サークル活動
3号館 (422㎡)	1	大集会室	音楽会、講演会、映画会、研究会等 (500人)
4号館 (448㎡)	1	厚生センター	書籍、日用品等の購売

課外活動施設

課外活動（サークル）は、大学教育における人間形成の上で必要不可欠であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館（1～3号館）以外に、平成14年3月に設置された課外活動共用施設などの課外活動施設がある。課外活動共用施設は、サークル間の交流・連携の場（学生の交流プラザ）としての中庭を囲むようにして、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室及びサークル室等を配置し、文化系、体育系合わせて90サークルが使用している。



●課外活動共用施設

施設名	所在地	備考
課外活動共用施設	郡元地区	文化系・体育系サークル
馬房（厩舎）	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター

国際交流会館

国際交流会館は、本学の外国人留学生及び本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54年4月に2号館が平成6年10月に設置された。

平成15年5月1日現在、23ヶ国74名の外国人留学生、外国人研究者が居住している。



●国際交流会館

（1号館）

室名	面積(m ²)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5～12	4室
浴室	3～8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考：延面積 1,430m² 建物構造 RC4

（2号館）

室名	面積(m ²)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	58	4室
補食室	11	4室
洗濯・シャワー室	11	4室
ラウンジコーナー	39	
談話コーナー	14	

備考：延面積 1,259m² 建物構造 R4

食堂



食堂名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347m ²	520席	統合地区（郡元地区）
郡元南食堂	882m ²	174席	教育学部内（"）
桜ヶ丘会館	417m ²	160席	医学部内（桜ヶ丘地区）
水産学部食堂	350m ²	128席	水産学部内（下荒田地区）

学生寮



区分	建物	延面積(m ²)	収容定員(名)
唐湊A棟	鉄筋5階建	1,412	76
唐湊B棟	"	1,568	92
寄居C棟	鉄筋2階建	629	64
女子寮	鉄筋4階建	1,600	81
共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍	鉄筋5階建	2,696	99
合計		8,222	412



全学合同研究プロジェクト

1. 大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行ー鹿児島県をケーススタディーとしてー（平成9年度～）

本研究プロジェクトは、食糧、健康、地球環境の諸問題を環境保全型農水産業を軸として解決しようとするものである。戦後の食糧不足の時代には、食物の量のみが求められていたために、作物生産に多量の化学肥料と農薬が使用されてきたが、昨今は「食と健康」に対する国民の関心が急速に高まり、残留農薬等による健康への害が問題視されるようになった。

過剰な農薬や化学肥料の施用を抑え、安全で健康な作物をつくるためには、有機質肥料を施用し、地力のある土壌をつくる必要があるが、昨今は地力が低下し、残留農薬等による土壌や作物の汚染が進行している。また、食生活の西欧化により巨大化した畜産業からは膨大な畜産廃棄物が生じ、一方では、沿岸域における種々の高級魚の大量養殖が深刻な海洋汚染を引き起こし、さらに工業分野においても多量の環境汚染物質が廃棄され、人類の生存を脅かしている。特に鹿児島県では、畜産廃棄物による環境汚染や茶畑での過剰施肥が問題になっている。

そこで、鹿児島大学を構成する全学部及び医療技術短期大学部等全学を挙げての総合的研究を実施した。内容は、①大地の健康と持続的食糧生産、②食物と健康、③地球環境と人間生活、の3課題について、各課題の研究者が相互に補完し合いながら総合的な研究成果を上げることを目指した。

平成9年度に開始した本研究プロジェクトには、平成10年度以降、学内外の研究者や技術者約140名が約60課題に参加している。地域の問題を解決し、得られた成果を社会へ還元するために、市民向けシンポジウムと研究成果発表会を毎年行っており、平成11年度は地域住民との連携をさらに深めるための企画として、奄美大島で「水問題 in 奄美」、屋久島で「屋久島の森林と水」のミニシンポジウムを、鹿児島市で「合鴨農法ワークショップ」を開催した。また、平成12年度にはワークショップ「畜産における土着微生物の利用」を開催し、学内外から800名を超える研究者、農業者、市民が参加した。平成12年度研究成果報告会においても前年度と同様、全課題の研究成果をパネル展示と口頭で発表し、280名を超える参加者を得て、熱心な討論、研究交流が行われた。本研究プロジェクトでは毎年度研究成果報告書を作成し、学内外に配布して広く活用することを薦めている。

平成13年度はこれまで4年間にわたるプロジェクトの中で成果を上げてきたアイガモ農法や土着菌の活用技術を生かして「網掛川流域環境共生プロジェクト」という名称で1) 農村地域の環境復元を目指す、2) 収穫された安全な農産物の地域流通を促進し、農家の経営と生活の安定を図る、3) 地域の子どもたちが自然環境と農業の大切さを自覚するための次世代教育を目指す、4) NGO カラモジアと連携して、地球規模での環境復元・循環型農業を目指す国際交流・協力を推進することを目的として鹿児島県溝辺町竹子（たかぜ）地区を対象に実施した。平成14年度はさらに5) 都市と農村の交流を促進する。6) 環境生農法の確立で安全・安心な農産物を生産する、を課題として加えた。

具体的には網掛川最上流の40aの水田にアイガモ農法を導入し、それによる環境への影響調査を実施した。平成14年度は地域一帯のアイガモ農法は400aにまで拡大した。さらに、地域の森林を管理し、水道事業を行っている竹子共正会の活動調査、森林利用調査、高齢者への聞き取り調査などを実施した。環境調査としては平成14年度も引き続き水質調査、植物生態調査、動物生態調査、土壌調査、米成分調査などを実施した。

またプロジェクトの推進に当たって現地のステビア米栽培生産組合、溝辺町役場、竹子小学校、日本有機株式会社など産官学民の12団体（平成14年度13団体）がプロジェクト委員会を組織して取り組んだ。鹿児島大学からは22名（平成14年度18名）の研究者が参加した。プロジェクト現地での収穫祭には平成13年度に引き続き平成14年度も800名余の参加者があるなど社会的関心を集め、地域おこしの役割も担った。プロジェクト報告会では環境復元の新たな方法が提示され、残留農薬の評価基準についても問題提起があった。

2. 新しい関係性を求めてーコミュニケーションの諸相ー（平成10年度～）

本研究プロジェクトは、「メッセージ」「コード」「メディア」の三要素でコミュニケーション行為の基本的構造を把握した第一期（平成10年～平成13年3月）の到達点を踏まえたものである。第二期目は、5つのパートに再編成し、より実践的な対応、提言を行う。

第1パート「子ども・親・教師のコミュニケーション能力を高める研修プログラムの開発研究」子ども、親、教師が、教育をめぐって生起する深刻な問題状況の解決に向けて、建設的なコミュニケーションを育成するためのトレーニングプログラムを完成させる。

第2パート「小児医療におけるコミュニケーションおよび教育」難治性疾患が多い大学病院での、医療活動を円滑にすすめるために、患児・保護者への説明方法および患者教育、並びに医学生教育方法の改善を図る。

第3パート「歯科治療と顔の研究」外科矯正患者における顔の表像様式および自他に対する評価の仕方、社会におけるふるまい

方の研究を通して、より質の高いコミュニケーションの実現をめざす。患者の主訴（主観的評価）と医師の見立て（客観的評価）との間に生じるズレの背景にある要因を探索し、患者の生活の質の向上を図る。

第4パート「大学と地域における国際化教育の推進とデジタル化教材の開発・共有の研究」インターネットを介した学術連携システムの本学における構築をめざし、双方向性学習教材の整備に関する研究を行う。外国語学習教材のデジタル化ならびに高速ネットワークを介した快適な利用環境の実現をめざして、試行的実験を行う。

第5パート「マルチエージェントシステムの開発とその応用に関する研究」自らの価値基準や価値判断に従って自己の行為を自由に選択できるソフトウェアであるエージェントに関しては、自らの力で周囲の状況を認識し、合目的な動作の実行主体となるが、そのようなエージェントが多数共存することによって、エージェント間での複雑な処理を実現することが可能となる。このような高度な知識処理を行うエージェントを開発する。

本プロジェクト第2期2年目の平成14年度は、『口と顔と歯科医療』『新しい関係性を求めて——人とコンピュータの関係——』『新しい関係性を求めて——子どもをとりまくコミュニケーション』という3冊の書籍形態の報告書を発行した。

3. <環境プロジェクト>

○開放系／半開放系のごみ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究（平成11～13年度）

○地域資源循環型社会に向けた屋久島エコタウン&鹿児島大学エコキャンパス構想（平成14年度～）

本プロジェクトは「屋久島エコタウンの実現をめざすプログラム」と「エコキャンパス・プログラム」の環境プロジェクトである。

前者は世界自然遺産に登録された屋久島をケースに自然と共生できるゼロエミッション構想に基づく資源循環型社会システムを展開し、自然環境に調和したエコタウンを構築するエコタウン・プログラムである。本プロジェクトを開始した平成11、12年度に問題提起、基礎調査、そして屋久町、民間と共同研究により有機質系廃棄物の処理、エネルギー化のためのパイロットプラントまで創設した。このプロジェクトが起源となり、本学を中核機関とした平成13～15年度文部科学省科学技術振興調整費（先導的研究等の推進）「循環型社会システムの屋久島モデルの構築」が採択された。本課題は屋久島内に発生する廃棄物を地域に発生する資源と捉えた循環型社会システムを構築することにある。これまで年2～3回の講演会、検討会、シンポジウムを開催し、その成果を公表している。中核機関である本学から約30名の研究者に加えて国連大学、東京工業大学および豊橋技術科学大学を初めとする合計約50名の研究者が参加している。この果実は鹿児島県内の諸市町、諸島だけでなく、国内外の諸島にも向けて発信することを目指している。

一方、後者は教育と研究の活動の場である大学から廃棄物をごみとして地域に大量に排出していることに対する警鐘、そして過去の負の遺産と考えられる埋め立て処理による影響調査、莫大な経費をかけずに学内環境の向上と整備の必要性を学内の構成員に喚起することを目標としたプログラムである。平成11～14年は大学内における環境的観点からの調査研究の結果、埋め立てによるダイオキシン等の問題は存在していないことを明らかにした。さらに平成13、14年度は4学部の学生（エコキャンパス・プロジェクト学生班員約30名）だけでなく、生活協同組合の関係者までも調査研究に参加し、人間行動学的調査も含めて学内に発生するごみの発生状況、処理方法に関する調査を、なお継続中である。また、13、14年度は鹿児島市内において唯一の貴重な鹿児島大学植物園（旧林園）の全ての樹木調査を行い、約320種の樹木名板、系譜板を設置した。これにより益々植物園（林園）としての重みを増やすことができた。これらは印刷物、電子ファイルとして平成15年度までに完成予定である。

4. 地域学の創造—新しい鹿児島学—（平成12～14年度）

本プロジェクトのテーマは、「地域学の創造——新しい鹿児島学——」である。これまで、日本における地方国立大学は、研究・教育という側面を重視し、人材育成という点から間接的に地域社会との関わりを持ってきたが、直接的に地域貢献に乗り出すことは概して少なかったといえる。それは、例えばアメリカの州立大学がコミュニティの一員として積極的に地域貢献を行ってきたのとは対照的であった。すなわち、日本に於ける地方国立大学は、知的資源の貯蔵庫としての役割を持ちながら、地域への還元という点では不十分な成果しか挙げてこなかった。これは、地域にとっても、地域に生きる大学にとっても不幸なことであった。現在、地方国立大学に対しては、こうした点への取り組みの必要性が社会的に強く求められるようになってきている。鹿児島大学においては、こうした認識に基づき、平成12年度、当時の田中弘允学長の発案に基づき、大学を地域社会再構築の核とすべく、全学プロジェクト「地域学の創造——新しい鹿児島学——」を立ち上げることになった。現在、地域社会は、環境問題、福祉問題、財政問題など様々な地域問題に直面している。大学はその性格上、目前の問題を即座に解決する能力には乏しいと言えるが、その

蓄積した知的資源と総合大学としての学際性という可能性、そして利害にとらわれないという立場を十分に活用するならば、中長期的な観点に立って、来るべき環境共生型社会としての地域社会の将来像を構築することは可能である。

このような観点から、学内外の地域研究の各専門家に呼びかけ、環境と共生をキーワードにして全学プロジェクト「地域学の創造——新しい鹿児島学——」を組織した。

全体は、大きく《社会のレベル》《自然のレベル》《文化のレベル》《人間のレベル》に4区分し、14のグループに分けて、総勢134人の研究者が研究を進めている。

社会のレベル：（１）鹿児島の環境問題（２）鹿児島の経済と環境（３）鹿児島のマルチメディア環境

自然のレベル：（４）鹿児島の自然環境（５）鹿児島の地域農業と食品（６）鹿児島の都市景観と住生活

文化のレベル：（７）近世薩摩の学術と玉里島津家資料（８）鹿児島の古代と考古学（９）鹿児島の言語と文学

（10）鹿児島の国際交流

人間のレベル：（11）鹿児島の地域医療（12）鹿児島の精神風土（13）鹿児島の生涯体育・スポーツ（14）鹿児島の教育

なお、研究成果は年2回の研究成果発表会（公開発表会）において公表し、研究成果の平易な解説冊子『鹿児島学のプロフィール』1号、2号、3号、4号や主要な提言をまとめた『シンポジウム 新しい鹿児島学』を刊行している。

5. 離島の豊かな発展のための学際的研究—離島学の構築—（平成12～14年度）

離島は国土の保全、海洋資源の利用、自然環境の保全などに極めて重要な役割を果たしている。特に、鹿児島県の離島は、世界遺産に登録された屋久島や、世界遺産の候補になっている奄美大島など、稀少野生生物が棲息している豊かな自然環境に恵まれており、また、特色ある風俗や文化などが残された学術研究の宝庫である。その一方で、鹿児島県の離島の大半は、隔絶性の強い外海離島で、しかも台風常襲地帯に位置することから災害を受け易く、しかも、所得格差、過疎、高齢化の進展など、経済的・社会的にも厳しい状況に置かれている。

本研究プロジェクトの目的は、鹿児島の離島の自然、文化、社会の特性を明らかにし、自然環境の保全、文化の継承と発展、農林水産業の振興と離島の厳しい条件の改善、教育・福祉・医療の充実を図る総合方策を作成し、政策などを提言することである。さらに、実践的に研究を継続し、離島に豊かなゆとりのある地域社会を築くための方略を明らかにし、これらの成果に基づき、離島の自然と文化、社会の特性と離島の社会発展の基本法則を明らかにする学問「離島学」の体系化を試みることである。

鹿児島大学は、離島との関わりが深く、昭和57年までは医学部附属熱帯医学研究施設が奄美大島における風土病研究・対策の拠点として活動してきた。平成13年に医学部に開設された離島医療学講座は、平成15年4月より大学院医歯学総合研究科の国際島嶼圏医療学講座へと発展した。離島についての研究は、これらの研究施設や講座以外にも、多くの学部学科で、個別に行われてきた。本研究プロジェクトは、学部の壁を越えて、地域に立脚する大学として、地域の課題に学際的に取り組み、その成果を鹿児島の離島へ還元し、更には、世界の離島へ発信することを目指している。

プロジェクトでは、毎年、成果報告会を開催するとともに、研究成果報告書を作成し、学内外に配布している。報告書の主要テーマは、平成12年度が、「南西諸島における自然環境の保全と人間活動—奄美の稀少・絶滅危惧植物、他」、鹿児島県離島の自立的発展の方策について」、平成13年度は、「琉球列島の陸棲脊椎動物相とその起源—古生物学・地質学の視点から」で、この報告では、琉球列島の起源を明らかにする多くの古生物学の発見が報告された。平成14年度は、平成15年2月に奄美大島の名瀬市で、奄美の日本復帰50周年記念事業の一環としてシンポジウムを開催し、6名のプロジェクト構成員が研究報告を行なった。そのタイトルは、「琉球列島におけるアリの多様性」、「星砂の仲間達“有孔虫”と奄美大島の環境」、「列島巡回歯科医療の旅／離島で求められる歯科医療とは」、「鹿児島県における歯周病罹患状況と全身状態との関連—島嶼域における状況」、「奄美におけるハブの生態」、「日本復帰50周年と奄美経済社会の変化」。

6. 「海の砂漠化＝磯焼け」発生機構の解明（平成13年度～）

藻場は魚介類をはじめとする多くの海産動物にとって産卵や生育の場所として水産資源の再生産に必要不可欠な存在であるが、そのほかにも、陸地から流出した窒素やリンなどの環境汚染物質を吸収し海水を浄化したり、地球温暖化の原因とされる大気中の二酸化炭素を吸収して生物の呼吸に必要な酸素を放出するなど、地球レベルの生態系を支える重要な役割を演じている。しかし、この海藻類が消失し、海底の岩肌が白く変色する「磯焼け」現象が鹿児島をはじめとする日本各地で報告されており、沿岸漁業上はもちろんのこと、海洋環境の問題となっている。

水産学部附属海洋資源環境教育研究センターでは、「海の砂漠化」とも呼ばれるこの「磯焼け」現象の原因を解明し、海藻が枯

死した原因を取り除いた上で海藻群落を人工的に造成するための基礎的研究を行ってきた。しかし、複雑な海洋生態系の中で発生したこの現象を従来の水産生物学的な手法だけで研究することには限界があり、平成13年度からは学長裁量経費の補助を受けて、水産学部、理学部、工学部、農学部、医学部、多島圏研究センターの教官と共同で全学共同研究プロジェクトを開始した。

このプロジェクト研究では、(1) 鹿児島県における磯焼け発生海域の分布調査、(2) 磯焼け発生海域の生物相調査、(3) 磯焼け発生海域の水質分析を行うことによって、磯焼けの発生原因を探るとともに、(4) 鹿児島県沿岸の藻場で優占種となる褐藻ホンダワラ類の生育に及ぼす環境条件の影響を明らかにするとともに、(5) このホンダワラ類を磯焼け海域に再び繁茂させることによって藻場造成を行うための基礎的な知見を得ようとするものである。

プロジェクト初年度の平成13年度には、小形航空機を用いて鹿児島県内の磯焼け海域の分布を迅速に把握する技術開発を行ったが、この他にも、佐多町や穎娃町、奄美大島において磯焼け海域の生物相調査を実施した。また、褐藻ホンダワラ類の初期発生や光合成特性を調べるなど、藻場造成のための基礎的な研究も行ってきた。その二年目の平成14年度には、串木野と佐多沿岸の磯焼け海域と藻場において、その水質環境が藻場の消長に及ぼす影響を明らかにするとともに、奄美大島や種子島においても磯焼け海域の生物相を比較調査した。さらに、磯焼け海域のサンゴ藻から未知の揮発性物質を抽出したが、今後はこの脂溶性物質が大型褐藻類の生長に及ぼす影響を明らかにする予定である。また、ホンダワラ類の組織培養を行い、幼体に生長させる技術を開発した。

一方、研究プロジェクト活動の一環として、鹿児島県水産試験場とも協力し、鹿児島県内の市町村の要請に応じて、藻場造成のための技術相談や基礎的な試験研究のコンサルタント業務も行っている。

7. 「鹿児島大学牛海綿状脳症（BSE）対策プロジェクト」（平成13年度～）

平成13年9月に日本国内で牛海綿状脳症（BSE）の第一症例が発生し、食の安全を巡る未曾有の事態に発展する中で、BSEを制御しヒトの健康危害を防止することを目的として、10月に本プロジェクトを発足させた。本プロジェクトには、家畜衛生や食肉検査に従事している獣医学分野に加えて、畜産学分野、さらに医学・歯学・工学・水産学分野などが参画することで、先発研究機関にない特色を求めた。具体的には、(1)肉骨粉を初めとする飼料ならびに飼育管理における安全性確保対策を検討するグループ（岡本嘉六教授）、(2)先発研究機関と緊密な関係を取り牛海綿状脳症の診断法を検討するグループ（坂本 紘教授）、(3)プリオン病の病態と発症メカニズムを検討するグループ（岡 達三教授）からなり、相互に協力しながら実験・調査研究を展開することとした。

12月22日に本プロジェクトの主催で「市民公開講座： もっと知ろう！ プリオン病（狂牛病）」を開催したのを初め、「BSEについての正しい理解」を普及するため、全国各地で講演会活動を続け、さらに、「音声入り講演CD版」を作成・頒布した。

これらの活動に対し、文部科学省からBSE専用研究室の整備が指示され、平成14年9月に岡 達三教授を室長とするBSE対策研究室が立ち上がった。

平成15年3月21日には、本プロジェクト主催で「鹿児島大学BSE対策研究シンポジウム： BSEはどこまで解ったか！」が開催され、3連休の初日にもかかわらず市民を含めて100名を越える盛況となり、熱心な討議のため時間延長となったが、最後まで退席者もなく終了した。これと合せて「研究報告書」が作成され、10題の研究報告、BSE対策研究室の整備・運営状況、プロジェクトの社会活動、ならびに、新聞記事や、ポスター等の資料を合せて92ページのものとなった。この間、農水省のBSE対策プロジェクトに本学から応募した中で、工学部の杉村和久教授が採用となり、また、岡 達三教授が民間研究所と共同で開発した異常プリオン分解酵素産生菌株は共同通信を通して世界に発信された。

これらの成果は、分野を異にする研究者が各研究室で培ってきた研究手法を持ちより、プリオン病という未知の問題に共同でアプローチしたことによるところが大きいと思われる。ヒトと動物に共通の感染症が今後も登場すると予想され、本年に入ってから新型コロナウイルス（SARS）の世界的流行が起きている。本プロジェクトを継続することで、境界領域にある人畜共通感染症の研究枠組みを構築していきたい。

学生の定員・現員 平成15年5月1日現在

●学 部

学 部 名	学 科 ・ 課 程	入学 定員	3年次編 入学定員	現 員						
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
法文学部	法 政 策 学 科	125	10	136(50)	136(62)	134(63)	176(58)			582(233)
	経 済 情 報 学 科	145		153(66)	152(68)	159(83)	203(88)			667(305)
	人 文 学 科	155		170(129)	163(113)	177(131)	237(156)			747(529)
	法 学 科			—	—	—	1(0)			1(0)
	経 済 学 科			—	—	—	3(0)			3(0)
	小 計	425	10	459(245)	451(243)	470(277)	620(302)			2,000(1,067)
教育学部	学校教育教員養成課程	225		239(120)	236(129)	231(120)	300(139)			1,006(508)
	養護学校教員養成課程	15		15(11)	15(11)	15(9)	18(14)			63(45)
	生涯教育総合課程	35		39(24)	36(26)	42(27)	55(36)			172(113)
	小学校教員養成課程			—	—	—	2(0)			2(0)
	中学校教員養成課程			—	—	—	2(0)			2(0)
	小 計	275		293(155)	287(166)	288(156)	377(189)			1,245(666)
理学部	数 理 情 報 科 学 科	40		40(9)	50(5)	69(14)	47(8)			206(36)
	物 理 科 学 科	45		49(8)	50(16)	60(4)	57(14)			216(42)
	生 命 化 学 科	50		55(31)	53(28)	64(25)	56(23)			228(107)
	地 球 環 境 科 学 科	50		58(29)	53(28)	64(19)	48(17)			223(93)
	数 学 科			—	—	1(0)				1(0)
	物 理 学 科			—	—	—	1(0)			1(0)
	小 計	185		202(77)	206(77)	258(62)	209(62)			875(278)
医学部	医 学 科	85	10	88(30)	87(33)	95(31)	103(32)	91(37)	126(33)	590(196)
	保 健 学 科	120	20	121(93)	120(104)	146(123)	133(113)			520(433)
	小 計	205	30	209(123)	207(137)	241(154)	236(145)	91(37)	126(33)	1,110(629)
歯学部	歯 学 科	55		56(15)	61(22)	88(24)	73(25)	52(15)	43(13)	373(114)
工学部	機 械 工 学 科	94	10	117(4)	113(1)	120(1)	102(4)			452(10)
	電 気 電 子 工 学 科	78		118(3)	110(4)	96(7)	63(4)			387(18)
	建 築 学 科	55		67(20)	64(13)	95(16)	55(14)			281(63)
	応 用 化 学 工 学 科	60		67(19)	63(10)	95(16)	57(16)			282(61)
	海 洋 土 木 工 学 科	48		67(6)	52(9)	79(1)	47(5)			245(21)
	情 報 工 学 科	60		77(5)	53(7)	105(4)	53(4)			288(20)
	生 体 工 学 科	60		73(29)	70(27)	62(22)	62(17)			267(95)
	小 計	455	10	586(86)	525(71)	652(67)	439(64)			2,202(288)
農学部	生 物 生 産 学 科	80		84(35)	84(38)	84(51)	104(46)			356(170)
	生 物 資 源 化 学 科	60		63(33)	64(36)	70(40)	81(30)			278(139)
	生 物 環 境 学 科	65		67(22)	71(24)	70(26)	79(26)			287(98)
	獣 医 学 科	30		33(15)	33(17)	32(16)	32(9)	32(18)	37(21)	199(96)
	小 計	235		247(105)	252(115)	256(133)	296(111)	32(18)	37(21)	1,120(503)
水産学部	水 産 学 科	130		141(55)	132(51)	133(46)	167(61)			573(213)
	水 産 教 員 養 成 課 程	10		13(3)	13(3)	12(5)	17(3)			55(14)
	小 計	140		154(58)	145(54)	145(51)	184(64)			628(227)
計		1,975	50	2,206(864)	2,134(885)	2,398(924)	2,434(962)	175(70)	206(67)	9,553(3,772)

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
 2. 現員には外国人留学生を含む。
 3. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期編入学定員

●大学院

研 究 科 名	入 学 定 員	現 員								
		修 士 課 程（博士前期）			博 士 課 程（博士後期）					合 計
		1 年	2 年	計	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
人文社会科学研究科	45	46(22)	67(32)	113(54)						113(54)
	6				13(4)				13(4)	13(4)
教 育 学 研 究 科	38	42(12)	51(18)	93(30)						93(30)
保 健 学 研 究 科	22	30(21)		30(21)						30(21)
医 学 研 究 科					7(2)	63(13)	47(5)	107(17)	224(37)	224(37)
歯 学 研 究 科					—	14(4)	10(4)	3(0)	27(8)	27(8)
理 工 学 研 究 科	216	274(34)	254(30)	528(64)						528(64)
	34				39(5)	34(4)	50(2)		123(11)	123(11)
農 学 研 究 科	68	78(33)	59(28)	137(61)						137(61)
水 産 学 研 究 科	32	34(11)	34(12)	68(23)						68(23)
医 歯 学 総 合 研 究 科	94				84(27)				84(27)	84(27)
連 合 農 学 研 究 科	22				62(16)	48(13)	85(18)		195(47)	195(47)
計	577	504(133)	465(120)	969(253)	205(54)	159(34)	192(29)	110(17)	666(134)	1,635(387)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12				4(1)	3(2)	2(0)	5(0)	14(3)	14(3)

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
2. 現員には外国人留学生を含む。
3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・宮崎・琉球の4大学の構成によるものである。
4. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学（指導教官）に属する学生数である。

※社会人在学生の職業別内訳

研究科名		学 校 教 育			公務員（教員を除く）			民間企業等	合 計
		公立	私立	計	国	地方	計		
人文社会科学研究科	博士前期	1	1	2	6	4	10	13	25
	博士後期				1	1	2	2	4
教 育 学 研 究 科		21		21					21
保 健 学 研 究 科		1	2	3	5	2	7	14	24
医 学 研 究 科		1		1	53	32	85	60	146
歯 学 研 究 科					1		1	1	2
理 工 学 研 究 科	博士前期	1	1	2	2	1	3	1	6
	博士後期	4	6	10	2	3	5	17	32
農 学 研 究 科					1		1	3	4
水 産 学 研 究 科					1		1		1
医 歯 学 総 合 研 究 科					23	11	34	14	48
連 合 農 学 研 究 科		3	3	6	6	5	11	10	27
計		32	13	45	101	59	160	135	340
山口大学大学院連合獣医学研究科								6	6

- (注) 1. 上記「●大学院」の院生数（現員）のうち社会人在学生を職業別に計上した。

●教育学部附属学校

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
附 属 小 学 校	普通学級	160	158	151	154	158	156	154	961	各学年 4 学級 計24学級
	複式学級	10	10	10	8	10	— (10)	— (10)	38 (20)	1・2年で1学級 3・4年で1学級 計2学級 (5・6年で1学級学内措置)
	計	170	168	161	162	168	166	164	989	

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1 年	2 年	3 年	計	
附 属 中 学 校	普通学級	200	200	200	202	602	各学年 5 学級 計15学級

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
附属養護学校	小学部	3	3	4	3	3	3	3	19	1 学年・2 学年で1 学級 3 学年・4 学年で1 学級 5 学年・6 学年で1 学級 計3 学級
	中学部	6	6	7	6				19	各学年 1 学級 計3 学級
	高等部	8	8	9	8				25	各学年 1 学級 計3 学級

学 校 名	入園定員	現 員				学 級 数
		3 才児	4 才児	5 才児	計	
附 属 幼 稚 園	3 年保育 20 2 年保育 14	18	33	30	81	3 才児、4 才児、5 才児 各 1 学級 計3 学級

※ 4 才児は 3 年保育進級児と 2 年保育入園児
5 才児は 4 才児の進級児



●附属中学校の総合的な学習（薩摩の食文化コース）



●附属養護学校小学部の「仲よし散歩」

外国人留学生 平成15年5月1日現在

(出身国別) ※42か国・地域 325名

地 域	国 名	法文学部	教育学部	理学部	医学部	歯学部	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計
アジア	バングラデシュ	1 ①		1	1					4 ④		7 ⑤
	カンボジア									3 ③		3 ③
	中国	18 ①	21 ①	9	17 ②	1	32 ②	16 ①	9 ①	30 ⑦		153 ⑮
	インド									3 ②		3 ②
	インドネシア			2 ①			5 ①		1 ①	11 ⑨	1 ①	20 ⑬
	イラン				2 ①					1		3 ①
	ヨルダン						1			1 ①	1 ①	3 ②
	韓国	6 ①	2		2	1	2 ①			4 ①		17 ③
	マレーシア						9			3 ①	1 ①	13 ②
	モンゴル				1 ①							1 ①
	ミャンマー			1			2 ②			7 ⑥	5 ⑤	15 ⑬
	パキスタン			1 ①	2 ①		4 ③				1 ①	8 ⑥
	フィリピン			1 ①	1 ①			1 ①	2 ②	3 ③		8 ⑧
	スリランカ									4 ④		4 ④
大洋州	タイ	1				1 ①		2 ①		4 ③		8 ⑤
	トルコ								1 ①	1		2 ①
	ベトナム						2 ①			7 ⑤		9 ⑥
	イエメン									1 ①		1 ①
	台湾	2			1		1					4
	オーストラリア						2					2
	パプアニューギニア			1 ①								1 ①
	ソロモン諸島			1 ①								1 ①
	カメルーン										1 ①	1 ①
	コンゴ			1 ①								1 ①
アフリカ	コートジボワール										1 ①	1 ①
	エジプト			2 ②					1 ①	2		5 ③
	エチオピア										1 ①	1 ①
	ケニア									1 ①		1 ①
	リビア										1 ①	1 ①
	モーリタニア									1 ①		1 ①
	ナイジェリア										1 ①	1 ①
	タンザニア							4 ①	1			5 ①
	ルーマニア									1 ①		1 ①
	ロシア連邦						1 ①					1 ①
北アメリカ州	カナダ			1 ①								1 ①
	メキシコ						1 ①			1 ①		2 ②
	パナマ						1					1
	アメリカ合衆国		2 ①							1 ①		3 ②
南アメリカ州	アルゼンチン						1			2 ①		3 ①
	ブラジル	2								1		3
	コロンビア				2 ①				1			3 ①
	ペルー	1			1				1			3
合 計		31 ③	25 ②	21 ⑨	30 ⑦	3 ①	64 ⑫	23 ④	17 ⑥	97 ⑤⑥	14 ⑭	325 ⑪⑫

*○印内は内数で国費留学生

(在籍身分別) ※42か国・地域 325名

在 籍 身 分	法文学部	教育学部	理学部	医学部	歯学部	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計
大学院 博士〔博士後期〕	4			3 ②							3 ②
“ “	3		3 ②	8 ④		11 ④			42 ⑮		64 ⑮
“ “	2		2 ②	6	1 ①	4 ②			21 ⑬		34 ⑮
“ “	1	3 ①	1	6 ①		8 ③			34 ⑮		52 ⑮
“ 修士〔博士前期〕	2	5 ①	4	2 ②		5 ①	4 ①	6 ④			26 ⑨
“ “	1	5	7	4 ②		12 ②	5 ③	4 ②			37 ⑨
学 部	6										
“ “	5			1							1
“ “	4	2	4			1	1				8
“ “	3	2	1	2	1	3	3	2			15
“ “	2	1	2		1	5		2			11
“ “	1	2	1	3		7		2			15
研 究 生	7 ①	8	1 ①			6	2	1			25 ②
科 目 等 履 修 生		2 ②					1				3 ②
特 別 研 究 学 生							2				2
特 別 聴 講 学 生	4	3		1		2	5				15
日 本 語 研 修 コー ス 生										14 ⑭	14 ⑭
合 計	31 ③	25 ②	21 ⑨	30 ⑦	3 ①	64 ⑫	23 ④	17 ⑥	97 ⑤⑥	14 ⑭	325 ⑪⑫

注1) 地域区分及び国・地域の順番は、原則として「世界の国一覧表」(財団法人世界の動き社)による。

注2) 連合農学研究科97名の構成大学別内訳(鹿大48 ⑮ 宮大20 ⑫ 佐大16 ⑧ 琉大13 ⑩)である。

*○印内は内数で国費留学生

(経費種別) *42か国325名

平成15年5月1日現在

種 別	大 学 院 生	学 部 学 生	研 究 生	科目等履修生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語研修コース生	合 計
国 費 留 学 生	96(31)		2(1)	2(1)			14(4)	114(37)
イ ラ ン 政 府 派 遣	1							1
マ レ イ シ ア 政 府 派 遣		8(3)						8(3)
エ ジ プ ト 政 府 派 遣	1							1
鹿 児 島 県 費 留 学 生			4(4)					4(4)
短期推進制度による留学生					2(1)	6(3)		8(4)
私 費 留 学 生	118(33)	42(17)	19(7)	1		9(5)		189(62)
計	216(64)	50(20)	25(12)	3(1)	2(1)	15(8)	14(4)	325(110)

() は女子を内数で示す。

(学部別)

平成15年5月1日現在

学 部	国 費		外 国 政 府 派 遣		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部		1			7(4)	10(7)	18(11)
教 育 学 部		2(1)			1(1)	11(6)	14(8)
理 学 部					8(2)		8(2)
医 学 部					6(4)	1(1)	7(5)
歯 学 部					2		2
工 学 部			8(3)		8	8(2)	24(5)
農 学 部					4(3)	8(3)	12(6)
水 産 学 部					6(3)		6(3)
合 計		3(1)	8(3)		42(17)	38(19)	91(40)

() は女子を内数で示す。

(大学院別)

平成15年5月1日現在

研 究 科	国 費				外 国 政 府 派 遣				私 費				合 計
	修士・博士前期		博士・博士後期		修士・博士前期		博士・博士後期		修士・博士前期		博士・博士後期		
	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	
人文社会科学研究科	1(1)		1						9(3)		2(2)		13(6)
教 育 学 研 究 科									11(5)				11(5)
医 学 研 究 科			6(4)								11(3)		17(7)
歯 学 研 究 科			1(1)										1(1)
医歯学総合研究科			1(1)								5(3)		6(4)
理 工 学 研 究 科	7	1(1)	13(3)						16(1)		16(1)		53(6)
農 学 研 究 科	4(2)								5(2)	2(1)			11(5)
水 産 学 研 究 科	6(2)								4(1)	1			11(3)
連合農学研究科			56(17)				2				39(12)		97(29)
留学生センター		14(4)											14(4)
合 計	18(5)	15(5)	78(26)				2		45(12)	3(1)	73(21)		234(70)

() は女子を内数で示す。

入学状況 平成15年5月1日現在

●学 部

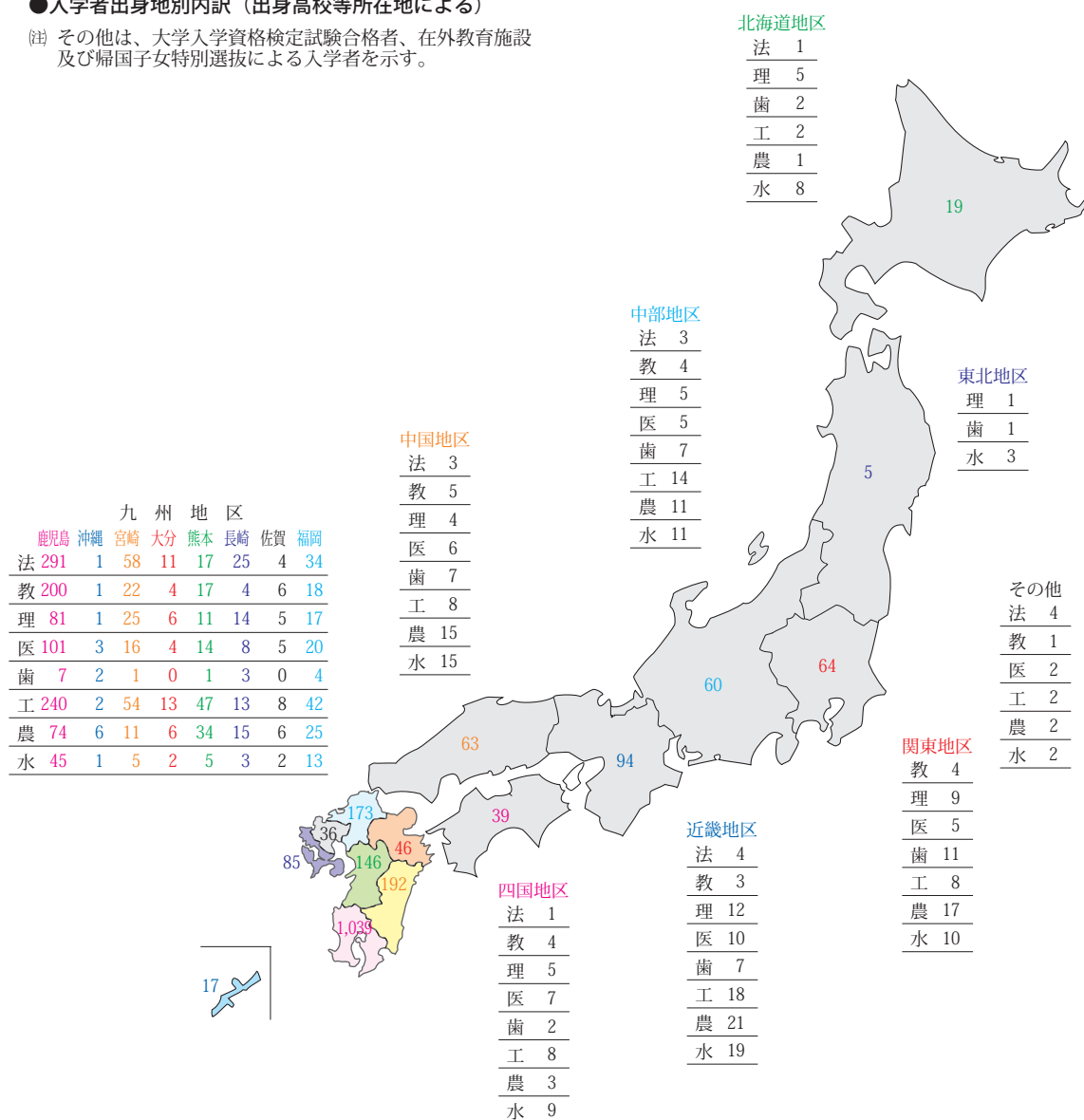
学 部 名	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別 (百分比) %	
				県 内	県 外
法 文 学 部	425	1,820 (952)	※ 2 (2) 457 (243)	63.7	36.3
教 育 学 部	275	2,001 (1,062)	293 (155)	68.3	31.7
理 学 部	185	547 (182)	※ 1 (1) 201 (76)	40.3	59.7
医 学 部	205	1,197 (639)	※ 3 (2) 206 (121)	49.0	51.0
歯 学 部	55	378 (133)	55 (15)	12.7	87.3
工 学 部	455	2,220 (373)	※ 6 (1) 479 (77)	50.1	49.9
農 学 部	235	1,094 (477)	247 (105)	30.0	70.0
水 産 学 部	140	615 (221)	※ 2 (1) 153 (57)	29.4	70.6
合 計	1,975	9,872 (4,039)	※14(7) 2,091 (849)	49.7	50.3

(注) 1. () 内は女子を内数で示す。

2. ※印は私費外国人留学生(マレーシア政府派遣学部留学生を含む)を外数で、その内()は女子を内数で示す。

●入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、大学入学資格検定試験合格者、在外教育施設及び帰国子女特別選抜による入学者を示す。



●大 学 院

研 究 科 名	入学定員	修 士 課 程 (博 士 前 期)		博 士 課 程 (博 士 後 期)	
		志 願 者 数	入 学 者 数	志 願 者 数	入 学 者 数
人 文 社 会 科 学 研 究 科	45	※ 7 (2) 69 (31)	※ 5 (2) 41 (20)		
	6			※ 3 (2) 16 (2)	※ 3 (2) 10 (2)
教 育 学 研 究 科	38	※10 (4) 45 (15)	※ 7 (3) 35 (9)		
保 健 学 研 究 科	22	30 (21)	30 (21)		
理 工 学 研 究 科	216	※18 (1) 335 (42)	※16 (1) 258 (33)		
	34			※10 (2) 32 (5)	※ 9 (2) 30 (3)
農 学 研 究 科	68	※ 5 (1) 84 (35)	※ 5 (1) 73 (32)		
水 産 学 研 究 科	32	※ 4 (1) 35 (10)	※ 4 (1) 30 (10)		
医 歯 学 総 合 研 究 科	94			※ 4 (4) 83 (25)	※ 4 (4) 80 (23)
連 合 農 学 研 究 科	22			※34 (14) 28 (3)	※32 (13) 28 (3)
合 計	577	※44 (9) 598(154)	※37 (8) 467(125)	※51 (22) 159 (35)	※48 (21) 148 (31)

平成14年度秋季入学

医 学 研 究 科				※ 1 (0) 7 (2)	※ 1 (0) 7 (2)
連 合 農 学 研 究 科				※ 2 (0) 0 (0)	※ 2 (0) 0 (0)

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
2. ※は外国人留学生を外数でそのうち () は女子を内数で示す。

卒業(修了)生数及び就職状況 平成15年5月1日現在

●学部

学 部 名	卒 業 数 累 計	平 成 14年度 卒業生数	就 職 状 況																
			就 職 希 望 者 数	就 職 者 数	就職率 (%)	業 種 別						地 区 別							
						農 林 業 漁 業	建 設 業 製 造 業 電 気 水 道	運 輸 通 信 卸 小 売 金 融 保 険 サ ー ビ ス 業	公 務 員	教 員	そ の 他	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	鹿 児 島 県 内	そ の 他
法文学部	10,791	421	269	214	79.6		7	139	45	11	12	45	5	9	1	4	40	99	11
教育学部	15,375	292	211	185	87.7			33	25	125	2	5		5	1		19	154	1
理 学 部	4,700	175	85	73	85.9		16	32	5	20		22	3	5			18	25	
医 学 部	4,170	246	123	119	96.7			119				25		8	5	1	29	50	1
歯 学 部	1,303	63																	
工 学 部	12,474	426	197	150	76.1		92	35	9	1	13	59	6	12	3	1	25	42	2
農 学 部	9,703	237	138	113	81.9	4	35	47	18	6	3	17	7	12	3		33	40	1
水産学部	5,909	122	68	58	85.3		11	38	6	2	1	17	2	5	2	1	14	17	
(文理学部)	2,651																		
計	67,076	1,982	1,091	912	83.6	4	161	443	108	165	31	190	23	56	15	7	178	427	16

- (注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
2. 卒業生数は9月卒業生を含む。
3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

●大学院

研究科名	修士課程		博士課程	
	修了生数 (累計)	平成14年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成14年度 修了生数
人文社会科学研究科	129	34		
法学研究科	123			
教育学研究科	280	48		
医学研究科			460	22
歯学研究科			95	7
理工学研究科	2,803	222	151	29
農学研究科	1,321	43		
水産学研究科	793	42		
連合農学研究科			352	34
(人文科学研究科)	120	—		
(理学研究科)	539	—		
計	6,108	389	1,058	92

- (注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。

●専攻科

専攻科名	修了生数 (累計)	平成14年度 修了生数
水産専攻科 (特設専攻科を含む)	659	6

学位授与状況

(平成15年5月1日現在)

研 究 科 名	修 士		博 士			
	累 計	平成14年度授与	課 程		論 文	
			累 計	平成14年度授与	累 計	平成14年度授与
法 学 研 究 科	123					
人 文 学 研 究 科	120					
人 文 社 会 学 研 究 科	129	34				
教 育 学 研 究 科	280	48				
理 学 研 究 科	539					
医 学 研 究 科			541	30	1,361	35
歯 学 研 究 科			113	10	50	4
理 工 学 研 究 科	2,803	222	159	34	25	3
農 学 研 究 科	1,321	43				
水 産 学 研 究 科	793	42				
連 合 農 学 研 究 科			407	47	48	3
計	6,108	389	1,220	121	1,484	45

(注) 1. 医学研究科については、国立移管後の数を計上した。

奨学生

(平成15年5月1日現在)

学 部 等 名		在 学 生 数	日 本 育 英 会			各 種 団 体 会	計	在 学 生 対 する 百 分 率
			第1種奨学生	第2種奨学生	きぼう21プラン			
学 部	法 文	2,000	258	2	287	45	592	29.6
	教 育	1,245	163	1	178	31	373	30.0
	理	875	122	2	115	19	258	29.5
	医	1,110	129	4	200	52	385	34.7
	歯	373	44	2	87	7	140	37.5
	工	2,202	255	4	326	27	612	27.8
	農	1,120	121	0	163	23	307	27.4
	水 産	628	39	0	93	7	139	22.1
	計	9,553	1,131	15	1,449	211	2,806	29.4
大 学 院 (修 士)	人文社会科学	113	9	0	9	0	18	15.9
	教 育 学	93	14	0	9	0	23	24.7
	理 工 学	528	64	0	52	0	116	22.0
	農 学	137	14	0	16	0	30	21.9
	水 産 学	68	9	0	10	0	19	27.9
	計	939	110	0	96	0	206	21.9
大 学 院 (博 士)	人文社会科学	13	0	0	0	0	0	0
	理 工 学	123	16	0	0	0	16	13.0
	医歯学総合	84	0	0	0	0	0	0
	医 学	206	9	0	0	2	11	5.3
	歯 学	31	18	0	2	0	20	64.5
	連 合 農 学	195	36	0	0	0	36	18.5
	計	652	79	0	2	2	83	12.7
合 計		11,144	1,320	15	1,547	213	3,095	27.8

備考：奨学金月額

日本育英会（平成15年度入学者）

第1種奨学生 学 部 生：自宅通学44,000円 自宅外通学50,000円

大学院生：修士・博士前期課程87,000円 博士後期課程121,000円

きぼう21プラン 学 部 生：30,000・50,000・80,000・100,000円

大学院生：50,000・80,000・100,000・130,000円

各種団体育英会 10,000～51,000円

国際学術交流協定大学

●国際学術交流協定大学（42大学 平成15年5月1日現在）

（平成14年度実績）

締結大学・年月日	締 結 母 体	協 定 内 容	受入数	派遣数	共同研究
（中国） 湘潭大学 昭和61年12月11日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	6	1	0
（中国） 雲南農業大学 平成元年5月11日	※ 農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	5	5	2
（中国） 湖南農業大学 平成元年6月2日	※ 農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	4	3	1
（中国） 中南大学（湖南医科大） 平成5年6月15日	大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	2	0	1
（中国） 中国医科大学 平成5年9月13日	※ 医学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	5	1	2
（中国） 湖南大学 平成7年8月23日	※ 工学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	1	4	1
（中国） 中国海洋大学 平成8年3月20日	大学	研究者の交流、学生との交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	2	1	1
（中国） 南京工業大学 平成11年9月14日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	3	1	1
（中国） 南開大学情報技術科学学院 平成11年12月27日	工学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 出版物の交換	0	1	0
（中国） 江南大学化学及材料工程学院 平成13年7月12日	工学部	研究者の交流、共同研究・調査 学生への指導助言 出版物の交換	1	0	1
（中国） 東北師範大学 平成13年11月13日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 出版物等の交換	3	11	2
（中国） 中国人民大学 平成14年7月1日	大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 出版物等の交換	3	4	0
（中国） 東北大学機械工程及自動化学部 平成14年11月7日	工学部	研究者の交流 共同研究・調査 学生への指導助言、出版物の交換	1	2	0
（韓国） 釜慶大学校 平成7年7月6日	※ 水産学部	研究者の交流、学生との交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	2	3	0
（韓国） 全北大学校 平成9年4月22日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	33	24	0
（韓国） 群山大学校 平成9年12月1日	※ 水産学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	0	0	0
（韓国） 済州大学校 平成10年1月30日	※ 大学	教職員の交流、研究員・学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	4	0	0
（韓国） 群山看護大学 平成12年8月30日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 学術出版物等の交換	29	18	0
（韓国） 國光大学校 平成12年12月12日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 学術出版物等の交換	15	0	0
（韓国） 江陵大学校 平成13年2月8日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 学術出版物等の交換	30	0	0
（韓国） 韓国海洋研究所 平成13年9月28日	水産学部	海洋科学分野における研究者交流と情報交換、合同航海 の推進 共同研究に関する取り決め	2	0	1
（韓国） 江原大学校 平成14年4月5日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 出版物等の交換	1	1	1
（インド） マニハール工業大学 平成12年10月6日	工学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 出版物等の交換	0	0	0
（インドネシア） ボゴール農科大学 昭和57年12月24日	水産学部	教官・研究・研修の協力 教官・大学院学生の交流	6	2	1
（インドネシア） デヤボネゴロ大学農畜産学部 平成12年3月2日	※ 農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	2	0	0
（フィリピン） フィリピン大学校ウィサヤ校 平成10年2月26日	水産学部	研究者の交流 共同研究・セミナーの開催 学術出版物の交換	23	20	2
（タイ） チュラロンコン大学石油及び石油化学研究所 平成12年7月2日	※ 工学部	研究者の交流 事務・技術職員の交流 学生との交流、出版物等の交換	1	1	1
（タイ） メシヨー大学 平成13年4月30日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流、共同研究・調査 出版物等の交換	1	3	0
（タイ） 国立モンクットエトソンプリ工科大学生物 資源工学研究所 平成14年1月16日	※ 農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	3	1	1
（タイ） 王珂ワットフンクラー大学歯学部 平成15年3月14日	※ 歯学部	研究者の交流、学生との交流 共同研究・調査 出版物等の交換	1	2	1
（ベトナム） ハノイ農業大学 平成14年3月6日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	1	3	1
（ベトナム） ハノイ貿易大学 平成14年12月25日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	0	1	1
（イラン） イラン理工科大学 平成15年3月16日	工学部	研究者の交流、事務・技術職員の交流、学生・大学院生の交流と 奨学金取得可能性の追求、共同研究・調査、特定問題に対する集 中講義の実施、出版物等の交換、長期休暇による研究者の受入	0	1	0
（南太平洋12ヶ国・地域） 南太平洋大学 昭和57年7月21日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	1	0	0
（パプアニューギニア） パプアニューギニア大学 昭和62年5月29日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	4	0	0
（オーストラリア） ニューイングランド大学 平成7年7月20日	※ 教養部	教員・研究員の交流、事務官・技官等の交流 学生への受入・派遣、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換、情報交換	0	3	1
（オーストラリア） シドニー工科大学 平成12年3月1日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	4	3	1
（アメリカ合衆国） ジョージア大学 昭和54年11月29日	※ 農学部	教官・学生・事務官・技官等の交流 共同研究プログラムの実施 学術出版物の交換	2	24	1
（アメリカ合衆国） マイアミ大学 平成4年11月30日	※ 大学	研究者の交流、学生への受入・派遣 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	0	6	2
（コロンビア） バジェ州立大学 平成7年8月30日	※ 大学	共同研究・調査の実施 研究者の交流、学生への受入・派遣	1	1	4
（スペイン） バレンシア工芸大学 平成12年2月7日	※ 大学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生との交流 共同研究・調査、出版物等の交換	0	2	0
（タンザニア） ソコイネ農科大学農学部 平成11年8月30日	※ 農学部	教官・技官・事務官・学生の交流 共同研究と調査活動 学術出版物の交換	7	1	0
計			209	154	31

※印は、学生交流に関する覚書（授業料不徴収協定）を締結している大学を表す。

外国人研究者の受入状況

(平成14年度)

区 分	研究者数
外国人教師・講師	4
外国人研究員制度による研究員	2
外国人教員	21
国際協力事業団による研修員	39
日本学術振興会による研究員	32
外国政府等支弁による研究員	47
その他の外国人研究員	85
視 察 ・ 見 学	35
計	265

研究員等の受入状況

(平成14年度)

区 分	受託研究員	内地研究員	計
医 学 部	2		2
歯 学 部		1	1
工 学 部		1	1
農 学 部	2		2
水 産 学 部	2		2
計	6	2	8

学術刊行物

部 局 等 名	刊 行 物 名	発行回数
法 文 学 部	鹿児島大学法文学部紀要（法学論集、経済学論集、人文学科論集） 鹿児島大学法文学部国語国文学会誌（国語国文薩摩路） 鹿大史学会誌（鹿大史学） 鹿児島大学英文学会誌（鹿大英文学）	年 2 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要（人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編） 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要 鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要 鹿児島大学教育学部附属養護学校研究紀要	年 1 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回 隔年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	Acta Medica Universitatis Kagoshimaensis 鹿児島大学医学雑誌 鹿児島大学医学部保健学科紀要	休 刊 年 4 回 年 2 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告 Memoirs of the Faculty of Agriculture Kagoshima University 鹿児島大学農学部農場研究報告 鹿児島大学農学部農場技術調査報告書 鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要 Mini Review and Data File of Fisheries Reserch	年 1 回 隔年 1 回
多 島 圏 研 究 セ ン タ ー	南太平洋研究 南太平洋海域調査研究報告	年 2 回 不 定 期
総 合 研 究 博 物 館	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	年1～2回

歳入歳出決算 平成14年度

●歳入

(単位：千円)

会 計 名	科 目	収 納 済 歳 入 額
国 立 学 校 特 別 会 計	附 属 病 院 収 入	13,364,188
	授 業 料 及 び 入 学 検 定 料	6,037,434
	学 校 財 産 処 分 収 入	39,423
	雑 収 入	1,682,065
合 計		21,123,110

●歳出

(単位：千円)

区 分	総 額	国 立 学 校	大学附属病院	産学連携等研究費	施設整備費	船舶建造費	改革推進公共投資施設整備費	文部科学本省
国 立 学 校 特 別 会 計	40,156,196	21,022,415	13,589,837	518,951	1,084,939	808,593	3,131,461	
一 般 会 計	491,744							491,744
合 計	40,647,940	21,022,415	13,589,837	518,951	1,084,939	808,593	3,131,461	491,744

各種学術研究費

●科学研究費補助金採択状況

(単位：千円)

学 部 等	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
学内共同教育研究施設等	2	1,700	2	2,400	4	3,800	5	8,700	5	7,900
法 文 学 部	16	22,300	14	12,100	18	24,500	18	29,400	21	40,000
教 育 学 部	9	8,000	11	29,700	17	29,800	17	22,500	15	19,700
理 学 部	21	36,100	21	47,400	21	40,600	22	41,400	26	57,200
医 学 部	76	151,800	73	190,700	87	202,600	95	231,600	85	241,200
歯 学 部	44	85,800	51	122,000	57	94,300	55	133,900	50	92,100
工 学 部	38	79,600	40	124,900	38	90,600	44	93,000	44	111,000
農 学 部	34	70,600	33	48,900	28	70,300	28	80,800	30	47,700
水 産 学 部	6	10,400	8	12,800	7	10,400	8	15,500	8	9,200
計	246	466,300	253	590,900	277	566,900	292	656,800	284	626,000

(注) 生命科学資源開発研究センターの平成13年度以前は遺伝子実験施設状況を示す。

●科学技術振興調整費

(単位：千円)

学 部 等	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
理 学 部	3	46,036	3	26,898	2	17,893
医 学 部	2	14,743	1	5,867	1	7,211
工 学 部	2	21,764	1	8,440	1	7,483
農 学 部	1	203,448	1	162,177	1	207,887
計	8	285,991	6	203,382	5	240,474

(注) 平成13年度発足。

●受託研究費受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー	—	—	—	—	1	500	—	—	—	—
法 文 学 部	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1,492
教 育 学 部	1	943	1	943	3	5,793	2	4,443	1	943
理 学 部	3	2,983	2	7,598	4	43,628	4	7,512	4	11,766
医 学 部	51	121,141	48	136,669	44	107,056	39	102,335	39	118,679
歯 学 部	7	8,033	7	7,833	9	12,258	7	7,033	7	21,601
工 学 部	15	67,383	10	45,413	12	42,805	15	36,660	20	84,811
農 学 部	7	11,329	12	28,253	16	26,133	11	14,300	15	71,056
水 産 学 部	8	12,585	10	11,309	7	12,900	7	9,520	14	17,247
計	92	224,397	90	238,018	96	251,073	85	181,803	101	327,595

●奨学寄附金受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
学 内 共 同 利 用 施 設 等	8	4,656	7	2,997	7	4,008	6	7,825	26	14,479
法 文 学 部	4	4,600	6	8,180	4	2,240	4	1,422	6	3,960
教 育 学 部	17	8,811	13	4,720	17	16,760	28	22,392	14	12,510
理 学 部	22	16,151	13	9,680	9	12,940	13	12,376	11	12,591
医 学 部	806	771,156	827	649,979	868	686,413	877	710,794	865	686,624
歯 学 部	58	30,236	53	33,676	31	19,504	49	27,776	33	15,873
工 学 部	101	66,460	108	57,458	96	69,047	93	80,417	109	76,324
農 学 部	62	56,839	66	51,106	58	54,159	57	48,263	72	59,180
附 属 農 場	2	1,500	3	940	3	5,500	2	940	—	—
水 産 学 部	19	39,042	17	11,212	9	7,356	25	17,522	32	18,878
医 療 技 術 短 期 大 学 部	8	2,290	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,107	1,001,741	1,113	829,948	1,102	877,927	1,154	929,727	1,168	900,419

●民間等との共同研究受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー	4	5,840	18	9,460	20	15,750	22	10,200	24	8,150
法 文 学 部	—	—	1	420	—	—	—	—	—	—
教 育 学 部	—	—	—	—	1	420	1	200	1	500
理 学 部	2	1,000	2	840	3	1,760	4	1,920	3	1,340
医 学 部	3	4,984	6	5,504	6	5,364	5	4,020	5	4,500
歯 学 部	1	300	1	300	1	300	—	—	2	—
工 学 部	13	28,355	11	32,410	20	57,765	21	30,480	27	42,920
農 学 部	1	2,420	2	2,840	4	3,590	4	3,370	18	14,010
水 産 学 部	2	2,000	1	1,500	2	4,420	2	4,420	3	2,500
計	26	44,899	42	53,274	57	89,369	59	54,610	83	73,920

公開講座

(公開講座)

(平成15年度)

講 座 名 (実 施 部 局)	開 設 期 間 時間帯	時間数 (時間)	講習料 (円)	受 講 対 象 者	募集人員 (人)	開 催 場 所
島尾敏雄の文学 (法文学部)	5/26～5/30 18:00～21:00	15	7,200	市民一般	25	名瀬市役所
異文化と伝統の交錯: アジアとヨーロッパ (法文学部)	5/31～7/19 13:30～16:30	25	9,200	市民一般	60	法文学部
離島における自治体財政の将来 (法文学部)	6/30～7/4 18:00～21:00	15	7,200	市民一般	25	名瀬市役所
高齢者介護の経済学と日独米の介護政策 (法文学部)	7/28～8/1 18:00～21:00	15	7,200	市民一般	25	名瀬市役所
市民生活と課税ーくらしの税情報ー (法文学部)	8/2～9/20 13:00～15:00	14	7,200	市民一般	50	法文学部
日本の方言、奄美・沖縄の方言 (法文学部)	10/20～10/24 18:00～21:00	15	7,200	市民一般	25	名瀬市役所
都市研究から見た唐代小説 (法文学部)	12/1～12/5 18:00～21:00	15	7,200	市民一般	25	名瀬市役所
携帯電話にみる電子立国日本 (法文学部)	12/1～12/5 18:00～21:00	15	7,200	市民一般	25	名瀬市役所
地域づくりと学校教育の役割 (教育学部)	7/19～7/20 10:00～16:00	10	6,200	現職教員及び地域 リーダー	30	和泊町中央公民館
コンピュータと教育 (教育学部)	7/23～7/25 9:00～16:20	18	8,200	教育関係者	19	教育学部附属 教育実践総合センター
ハンセン病問題を学ぶ (教育学部)	8/21～8/22 10:00～16:00	10	6,200	市民一般	65	総合教育研究棟
子ども理解と望ましい関わり方を求めて (教育学部)	10/4～11/15 13:00～15:00	14	7,200	市民一般	30	川内市中央公民館
理学療法士・作業療法士のための統計処理 (医学部)	6/7・6/21 13:30～16:30	6	6,200	理学療法士・作業 療法士	20	医学部保健学科
ストーマ造設者のQOL向上への援助 (医学部)	8/2 9:30～17:00	6.5	6,200	保健師、助産師、看護師、 准看護師	50	医学部保健学科
Active Agingーリハビリテーション からケアまでー (牧園町) (医学部)	8/3 9:00～16:30	6	6,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、ヘルパー、市民一般	80	霧島リハビリテーション センター
高齢者の介護 (医学部)	8/23 13:00～18:00	5	5,200	医療従事者・福祉 関係者	40	医学部保健学科
Active Agingーリハビリテーション からケアまでー (鹿児島市) (医学部)	9/7 9:00～16:00	6	6,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、ヘルパー、市民一般	100	医学部鶴陵会館
生涯スポーツ講座 (スコティッシュ・ カントリー・ダンス) (医学部)	10/4・11/1 10:00～16:00	10	6,200	市民一般	24	医学部保健学科
Active Agingーリハビリテーション からケアまでー (宮崎市) (医学部)	10/5 9:00～16:30	6	6,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、ヘルパー、市民一般	100	宮崎県看護等研修セン ター
Active Agingーリハビリテーション からケアまでー (名瀬市) (医学部)	11/16 9:00～16:30	6	6,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、ヘルパー、市民一般	80	名瀬市金久地区分館
「歯周治療へのインターディシプリ ナリーアプローチ」 (歯学部)	7/27 9:00～13:00	4	5,200	歯科医師、歯科衛 生士、歯科技工士、 歯科医療関係者	30	鹿児島県歯科医師会館
「歯性感染症 (う蝕と歯周疾患を含 む) の最新治療」 (歯学部)	2/15 13:00～17:00	4	5,200	歯科医師、歯科衛 生士、歯科技工士、 歯科医療関係者	30	鹿屋市民会館
高校の化学の教科書に見る“工業的 製法”の解説 (工学部)	8/4 10:00～16:00	5	5,200	高等学校・中学校 の化学 (理科) の 教諭	40	工学部
「次世代農業」への道 (農学部)	8/1～9/29 18:30～20:30	15	7,200	市民一般	50	農学部
「体験乗船学習会～鹿児島湾の自然 環境を体験乗船で実感しよう～」 (水産学部)	8/8 10:00～16:00	5	0	小学生・中学生	26	水産学部 附属練習船南星丸
異文化理解セミナー (留学生センター)	2/17～2/20 13:00～16:00	12	7,200	市民一般	50	総合教育研究棟
大学博物館への誘い (総合研究博物館)	6/22 10:00～16:00	5	0	小中高教員	20	総合研究博物館
自然体験ツアー (総合研究博物館)	7/27 8:30～17:00	8.5	0	市民一般 (小中学 生とその父兄)	40	鹿児島湾北部一帯
学校教育におけるeーラーニング活 用実習 (学術情報基盤センター)	8/7～8/8 10:00～16:00	10	6,200	小中高教員	35	学術情報基盤センター
合 計 (29) 講 座		301			1,219	

土地・建物・船舶

(平成15年 5 月 1 日現在)

区 分			土 地 (㎡)	建 物 (延面積㎡)			備 考 (単位㎡)	
				木 造	非 木 造	計		
土 地 及 び 建 物	郡元地区	事 務 局	233,630 (22)	87	10,537	10,624		
		保 健 管 理 セ ン タ ー		0	561	561		
		附 属 図 書 館		0	12,697	12,697		
		法 文 学 部		0	6,930	6,930		
		理 学 部		0	13,841	13,841		
		工 学 部		0	33,415	33,415		
		農 学 部		210	31,934	32,144		
		共 通 教 育		0	17,616	17,616		
		そ の 他		0	10,712	10,712		
		教 育 学 部	118,010	489	40,381	40,870		
		小 計	351,640 (22)	786	178,624	179,410		
	桜ヶ丘区	医学部及び同附属病院	218,726 (4)	0	100,116	100,116	看護師宿舎 (土地 4,431 建物 4,128)	
		歯学部及び同附属病院		0	23,203	23,203		
		亀ヶ原総合グラウンド		0	52	52		
		桜ヶ丘寄 宿 舎		0	3,122	3,122		
		小 計	218,726 (4)	0	126,493	126,493		
	下 荒 田 区	水 産 学 部	49,153	93	12,046	12,139	備外人宿舎 (土地438 建物223) 宿舎 (土地 3,455 建物 1,891)	
		国際交流会館 (1号館)		0	1,430	1,430		
		〃 (2号館)		0	1,259	1,259		
		小 計	49,153	93	14,735	14,828		
	そ の 他	唐 湊 寄 宿 舎	24,696	0	5,694	5,694	宿舎 (土地2,714 建物916)	
		唐 湊 果 樹 園	72,682	0	1,015	1,015		
		唐 湊 林 園	9,957	19	0	19		
		寺山自然教育研究施設	301,248	0	831	831		
		教育学部附属養護学校	16,776	509	3,058	3,567		
		桜島火山観測点	297	0	31	31	宿舎 (土地220 建物69)	
		霧島リハビリテーションセンター	15,425 (826)	6	4,409	4,415		
		高 隈 演 習 林	30,620,836	88	1,535	1,623		
		佐 多 演 習 林	2,992,325	0	166	166		
		入 来 牧 場	1,478,451 (25)	0	3,497	3,497		
		垂 水 実 験 地	4,622	68	0	68	宿舎 (土地1,780 建物329)	
		桜島溶岩実験場	372,713	0	0	0		
		指宿植物試験場	39,127	313	2,047	2,360		
		東町ステーション	16,902	0	1,183	1,183		
		鴨池臨海地	4,990 (94)	0	1,642	1,642	その他の宿舎 (土地 16,382 建物 9,034)	
		職員会館及び外国人宿泊施設	955	0	717	717		
		磯 艇 庫	407 (202)	0	243	243		
		谷 山 ふ 頭	0 (1,156)	0	0	0		
		平 川 艇 庫	0 (595)	0	208	208		
		甌 島 観 測 点	0 (49)	0	24	24		
		伊 集 院 観 測 点	0 (7)	0	0	0		
		屋 久 島 観 測 点	0 (109)	0	40	40		
		串 間 観 測 点	0 (58)	0	58	58		
		紫 尾 観 測 点	0 (58)	0	58	58		
		黒 島 観 測 点	0 (58)	0	58	58		
		佐 多 観 測 点	0 (58)	0	11	11		
		高 岡 観 測 点	0 (105)	0	40	40		
		吉 松 観 測 点	0 (47)	0	0	0		
		田 代 観 測 点	0 (6)	0	0	0		
		小 計	35,972,409 (3,453)	1,003	26,565	27,568		
	合 計		36,591,928 (3,479)	1,882	346,417	348,299	宿舎 (土地 29,420 建物 16,589)	
船 舶	船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長 さ (m)	幅 (m)	深 さ (m)	建 造 年 月 日
	かごしま丸	1,297.08	ディーゼル	2,200	62.70	12.60	5.45	昭和56年10月30日
	南 星 丸	175	〃	1,800	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

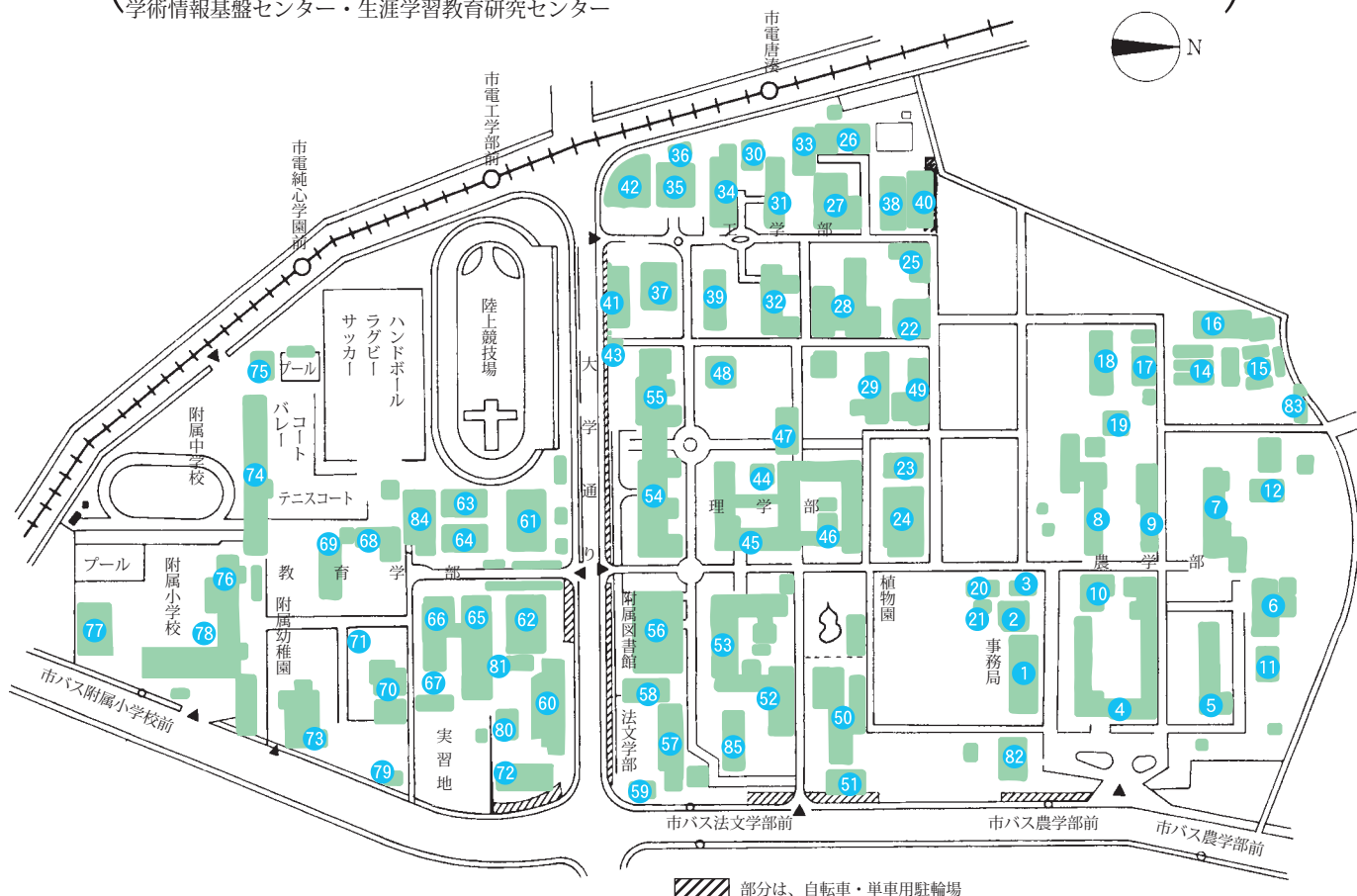
(注) 1. 土地欄 () 内数量は借用地

2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

地区別建物等配置図

郡元地区

事務局・法文学部・教育学部・理学部・工学部・農学部
大学院連合農学研究科・附属図書館・保健管理センター
地域共同研究センター・多島圏研究センター
アイソトープ総合センター・留学生センター・総合研究博物館・機器分析センター・生命科学資源開発研究センター
学術情報基盤センター・生涯学習教育研究センター



郡元地区

- ① 事務局・生涯学習教育研究センター
 - ② 保健管理センター
 - ③ 事務局車庫、電話交換室、埋蔵文化財調査室
 - ④ 農学部1号館（管理室・生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室）
 - ⑤ 農学部2号館（獣医学科実験研究室）
 - ⑥ " 附属家畜病院
 - ⑦ " 3号館（生物資源化学科・生物環境学科実験研究室）
 - ⑧ " 4号館（生物生産学科・生物環境学科実験室・農業経営経済学研究室）
 - ⑨ " 5号館（生物生産学科・生物環境学科実験研究室）
 - ⑩ " 6号館（生物生産学科実験研究室・農業経営経済学研究室）
 - ⑪ " 7号館（獣医学科）
 - ⑫ 生命科学資源開発研究センター・アイソトープ総合センター
 - ⑬ R1実験室
 - ⑭ 農学部温室
 - ⑮ " 植物研究実験施設
 - ⑯ " 網室・硝子室
 - ⑰ " 附属農場動物飼育棟
 - ⑱ " 附属農場研究実験棟
 - ⑲ " 低温貯蔵実験室
 - ⑳ " 水理実験室
 - ㉑ " 昆虫飼育棟
 - ㉒ 中央変電所
 - ㉓ ボイラー室・廃液処理施設
 - ㉔ 中央食堂
 - ㉕ 工学部中央実験工場
 - ㉖ 工学部機械工学科第3実験棟
 - ㉗ 工学部機械工学科2号棟
 - ㉘ " 建築学科棟
 - ㉙ " 電気電子工学科棟
 - ㉚ " 機械工学科第1実験棟
 - ㉛ " 機械工学科1号棟
 - ㉜ " 応用化学工学科1号棟
 - ㉝ " 機械工学科第2実験棟
 - ㉞ " 応用化学工学科2号棟
 - ㉟ " 海洋波動実験棟
 - ㊱ " 薬品庫
 - ㊲ " 海洋土木工学科棟
 - ㊳ " 情報工学科棟
 - ㊴ " 講義研究棟
 - ㊵ 地域共同研究センター
 - ㊶ 工学部管理棟
 - ㊷ 稲盛会館
 - ㊸ 倉庫
 - ㊹ 総合研究博物館
 - ㊺ 理学部1号館（管理室・物理科学科・地球環境科学科実験研究室・講義室）
 - ㊻ " 理学先端研究棟
 - ㊼ 理学部2号館（数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・生命化学科実験研究室・講義室）
 - ㊽ " 3号館（生命化学科実験研究室・講義室）
 - ㊾ 理工系総合研究棟
 - ㊿ 学術情報基盤センター
 - ① 大会館（1・2・4号館）
 - ② " 大集会室（3号館）
 - ③ 共通教育棟1号館（管理室・講義室）
 - ④ " 2号館（文科研究室）
 - ⑤ " 3号館（理科研究室）・留学生センター
 - ⑥ 共通教育棟4号館（理科研究室）
 - ⑦ 中央図書館
 - ⑧ 法文学部管理棟・研究棟・講義棟
 - ⑨ " 研究棟・講義棟
 - ⑩ " 講義棟
 - ⑪ 課外活動共用施設
 - ⑫ 第1体育館
 - ⑬ 第2体育館
 - ⑭ 教育学部武道場
 - ⑮ " 体育科実験研究棟
 - ⑯ " 管理棟・理系研究棟
 - ⑰ " 第1講義棟
 - ⑱ " 実習棟
 - ⑲ " 第2講義棟
 - ⑳ " 文系研究棟
 - ㉑ " 音楽美術科棟
 - ㉒ 教育学部附属教育実践総合センター
 - ㉓ 屋内プール50m
 - ㉔ 教育学部附属幼稚園
 - ㉕ " 附属中学校
 - ㉖ " 附属中学校体育館
 - ㉗ " 附属小学校
 - ㉘ " 附属小学校体育館
 - ㉙ " " 昆虫飼育室
 - ㉚ 教育学部倉庫
 - ㉛ 弓道場
 - ㉜ 課外活動共用施設
 - ㉝ 大学院連合農学研究科棟
 - ㉞ 馬術部馬房
 - ㉟ 郡元南食堂
 - ㊱ 総合教育研究棟（多島園研究センター・機器分析センター）

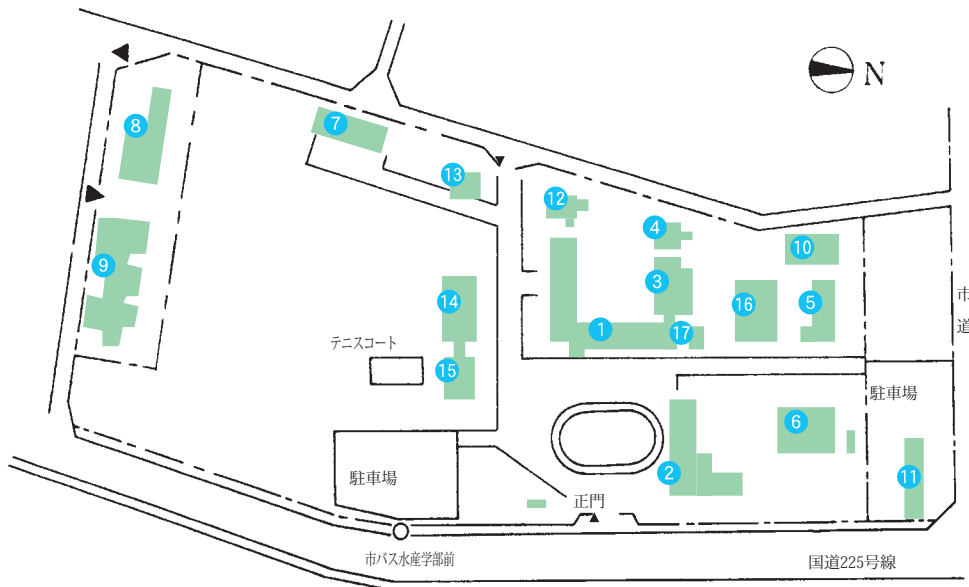
桜ヶ丘地区 (医学部・附属病院) (歯学部・附属病院)



桜ヶ丘地区

- | | | |
|---|------------------------------------|--------------------|
| ① 医学部臨床講義棟(医歯学総合研究科) | ⑩ // 附属病院結核伝染病棟 | ⑳ 弓道場 |
| ② // 臨床研究棟 | ⑪ 医学部附属病院管理棟 | ㉑ 歯学部講義実習棟 |
| (// 難治ウイルス病態制御研) | ⑫ // 基礎講義室・共同利用棟 | ㉒ 系統解剖実習棟・歯学部解剖実習棟 |
| ③ // 基礎研究棟(医歯学総合研究科) | ⑬ 中央機械棟 | ㉓ 桜ヶ丘体育館 |
| ④ // R I 実験施設 | ⑭ ポンプ室 | ㉔ 運動器具庫 |
| ⑤ // 生命科学資源開発研究センター
実験動物研究分野(動物実験施設) | ⑮ ライナック治療室 | ㉕ 医学部保健学科 |
| ⑥ // 福利厚生施設 | ⑯ 附属図書館桜ヶ丘分館 | ㉖ 医療情報施設 |
| ⑦ // 学生寄宿舍 | ⑰ 体育器具庫 | ㉗ M R I - C T 装置棟 |
| ⑧ // 附属病院看護婦宿舍 | ⑱ 廃液処理施設 | ㉘ 医・歯学部課外活動施設 |
| ⑨ // 附属病院診療棟・病棟 | ⑲ 歯学部・附属病院病棟・研究棟(医歯学
総合研究科)・診療棟 | ㉙ 鶴陵会館 |
| | | ㉚ 医学部校舎 |

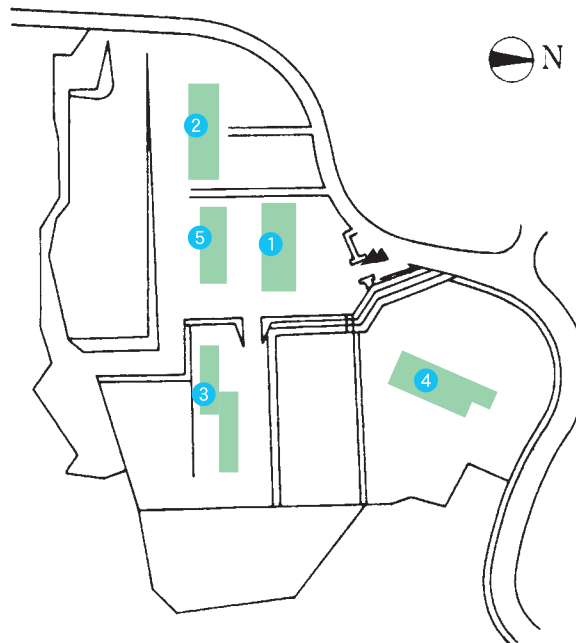
下荒田地区（水産学部）



下荒田地区（水産学部）

- ① 管理・研究棟
- ② 資源利用科学棟
- ③ 管理・研究棟(4F講義室)
- ④ 変電室・電話交換室
- ⑤ サークル棟
- ⑥ 資源利用科学実習棟
- ⑦ 食堂・売店(1F)
附属海洋資源環境教育研究センター(2F)
- ⑧ 国際交流会館(1号館)
- ⑨ " (2号館)
- ⑩ 回流水槽実験棟
- ⑪ 職員宿舎
- ⑫ 車庫
- ⑬ 附属海洋資源環境教育研究センター実験室
- ⑭ 資源育成科学棟
- ⑮ 附属図書館水産学部分館
- ⑯ 講義棟
- ⑰ 倉庫

学生寮



学生寮

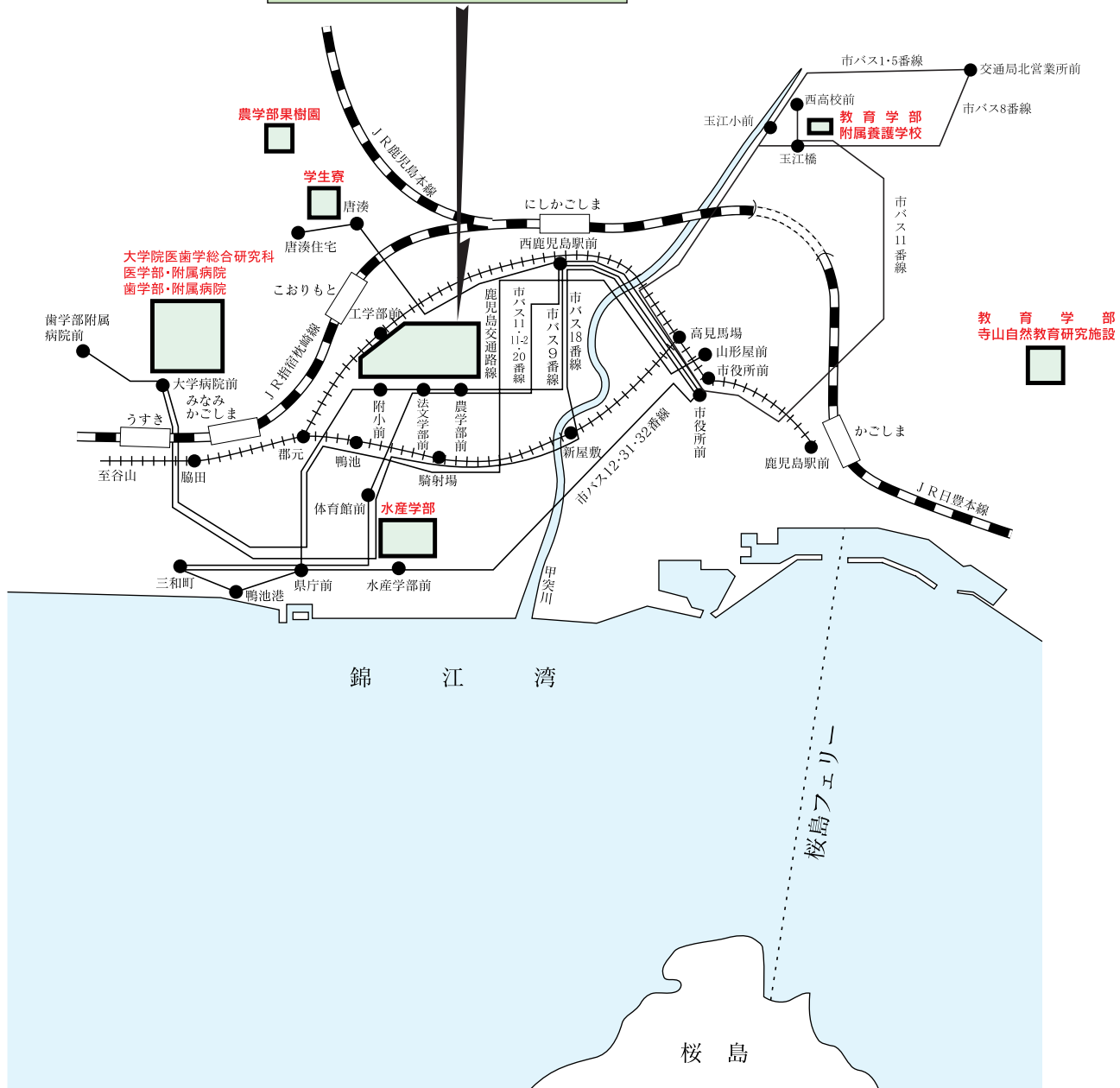
- ① 男子寄宿舍A棟
- ② " B棟
- ③ " 5号寮
- ④ 女子寄宿舍
- ⑤ 共用棟

交通機関利用略図



事務局	大学院連合農学研究科
法文	附属図書館
教育	保健管理センター
附属	地域共同研究センター
小学	多島園研究センター
中学校	アイソトープ総合センター
幼稚園	留学生センター
附属	総合研究博物館
総合	機器分析センター
理工	生命科学資源開発研究センター
農学	学術情報基盤センター
	生涯学習教育研究センター

学 部 等	交 通 機 関
事務局・農学部・大学院連合農学研究科・保健管理センター・アイソトープ総合センター・総合研究博物館・機器分析センター・生命科学資源開発研究センター・生涯学習教育研究センター	市 9・11・11-2・20番線(鴨池港行) 農学部前
法文・教育・教育学部附属教育実践総合センター・理・工学部・附属図書館・地域共同研究センター・多島園研究センター・学術情報基盤センター・留学生センター	市 9・11・11-2・20番線(鴨池港行) 法文学部前
附属小学校・中学校・幼稚園	営 9番線(鴨池港行)ー附属小学校前
附属養護学校	バ 8番線(交通局北営業所前行) 玉江橋 11・11-2番線(西高校前行) 玉江・玉江小前 1・5番線(交通局北営業所前行) 玉江小前 24番線(緑ヶ丘団地行) 玉江小前
水産学部	ス 11・11-2番線(鴨池港行) 15番線(紫原行) 17番線(広木農協前行) 18番線(大学病院経由桜ヶ丘行) 体育館前 12・31・32番線(三和町行)ー水産学部前 18 (大学病院経由 大学病院前 桜ヶ丘行) 歯学部病院前
大学院医歯学総合研究科 医学部・附属病院 歯学部・附属病院	私営バス 鹿児島交通線 大学病院前
学生寮	市営バス 25番線(唐湊住宅行) 唐湊



所在地一覧

事務局	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
共通教育棟	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表) 時間外099(285)8834
法文学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
教育学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表) 時間外099(285)7729
附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属養護学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257・0206
附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
附属教育実践総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
理学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
医学部	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
附属難治ウイルス病態制御研究センター	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
附属病院	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター)	〒899-6603	始良郡牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2457・2538(代表・時間外)
歯学部	〒890-8544	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
附属病院	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
工学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
農学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩郡入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡佐多町馬籠349	
附属家畜病院	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
水産学部	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター 東町ステーション	〒899-1403	出水郡東町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
大学院医歯学総合研究科	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111
大学院連合農学研究科	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属図書館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
桜ヶ丘分館	〒890-0075	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5201
水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
保健管理センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
地域共同研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
多島圏研究センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
アイソトープ総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
留学生センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)3601
総合研究博物館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
機器分析センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7188
生命科学資源開発研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
学術情報基盤センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
生涯学習教育研究センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
稲盛会館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
大学会館	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
学生寮	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
国際交流会館(1号館・2号館)	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)6446
職員会館(天心荘)	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	☎099(252)0577
外国人研究員宿泊施設	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	

キャンパスの全景

- 郡元キャンパス



- 桜ヶ丘キャンパス



- 下荒田キャンパス



鹿児島大学位置図



●鹿児島大学からの距離(km)

1	農学部桜島溶岩実験場	9
2	農学部附属演習林高隈演習林	48
3	農学部附属演習林佐多演習林	110
4	医学部附属病院リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター)	65
5	農学部附属農場入来牧場	30
6	農学部附属農場指宿植物試験場	45
7	水産学部附属海洋資源環境教育 研究センター東町ステーション	117